

Hope

Fun

Support

Encounter



聖学院大学ボランティア活動支援センター

2021 年度事業報告書

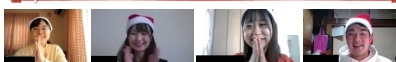
Seigakuin Volunteer Support Center Report 2021

Love

Change

Exchange

Smile



『受けるよりは与える方が幸いである』

—新約聖書 使徒言行録 第20章35節

刊行によせて



聖学院大学ボランティア活動支援センター 所長
政治経済学部 准教授
若原 幸範

2021年度も、昨年度から引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による強い制限の下におかれることとなりました。大学としては状況を見極め、慎重な対策を取りながら対面授業を再開し、課外活動も少しずつ日常への回帰を目指して取り組んできました。しかし、COVID-19の終息は依然として見通せず、学生・教職員ともに気持ちが晴れないなかで過ごしてきた1年でした。

そのようななかでも、ボランティア活動に取り組む学生たちは生き生きとした姿を見せてくれました。コロナ禍において学生たちが編み出した「オンラインボランティア」にはさらに磨きがかかり、また本学では手薄だった環境問題に取り組むボランティア団体が活動を始めました。昨年からはオンライン化した復興支援スタディツアーも、被災地の皆様の協力を得て現地からのライブ配信を導入することができました。学生サポートメンバー「サポメン！」も、学生ならではの視点でとても意義深い企画を実現してくれました。

一方で、コロナ禍の大きな課題として明らかになったのは、学生団体の継続の困難さでした。特に昨年度春学期に大学が閉鎖となった影響は甚大で新メンバーの加入が進まず、さらに活動が制限されるなかでノウハウの継承に支障をきたす団体が多く見られました。長年活躍してきた復興支援ボランティアチーム【SAVE】が、惜しまれながらも休止となったのはその典型といえるかもしれません。そのため、センターとしての新たな取り組みとして各団体の「引き継ぎ」を支援するイベントを実施しました。

2021年度も悲喜こもごも、学生も教職員もともに日々試行錯誤でチャレンジを続けてきました。来年10周年を迎えるボランティア活動支援センターの奮闘の記録、今年もどうぞ高覧ください。

目次

刊行によせて	3
ボランティア活動支援センター 所長 若原 幸範	
新入生のボランティア意識調査 —「2021 年度新入生アンケート」から—	6
センター年間行事一覧	8
各事業報告	
1. ボランティアプログラム	12
(1) 学生サポートメンバー養成講座	
(2) 復興支援ボランティア事業 i) 東北“オンライン”スタディツアー ii) 釜石「キッズかけっこ教室」	
(3) 学内ボランティアプログラム i) シトラスリボンプロジェクトリボン製作会 ii) 葦ストローづくりワークショップ	
(4) ボランティア研修 i) オンラインボランティアに必要なスキルを学ぼう！ ii) 直接会わなくてもできる！楽しい活動の作り方（基礎編／実践編）	
(5) 視野を広げるボランティア教養講座の実施 i) ミャンマーの今を知る ii) タイ北部の子どもたちの学びを止めないために	
(6) 夏ボラ説明会	
2. 学生サポートメンバー(サポメン!)との連携	22
(1) ボランティア勧誘 DAY!!	
(2) サポメン！ボランティアサロン	
(3) サポメン！ミーティング	
3. 学内ボランティア団体の育成支援	26
(1) 団体の活動・運営支援	
(2) 団体の立ち上げ支援	
(3) 活動継続支援	
(4) 引継ぎイベント	
4. ボランティア団体サポート制度	29
(1) ボランティア・まちづくり活動助成事業 i) ボランティア・まちづくり活動助成事業 ii) ボランティア・まちづくり活動助成事業検討小委員会	
(2) 聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金	

5. ボランティア情報のマッチング	35
(1) ボランティアマッチング相談対応	
(2) ボランティア情報の発信（掲示板・メールマガジン・LINE・Teams等）	
(3) 学外団体からのボランティア募集相談対応	
6. 授業・学内イベントへの協力	39
(1) 授業協力	
(2) ほたる祭り実施協力	
7. 外部との連携・協力など	41
(1) 「ボラフェス！2021」の実施	
(2) 地域イベントへの参画	
(3) 法人内での連携	
i) 聖学院中学校中1 総合学習 L.L.T.「Learn Live Together」への協力	
(4) 学内他部署との連携	
(5) 大学ボランティアセンター・コーディネーター研究会（通称：ほんわかねっと）	
8. その他	44
(1) ボランティア活動支援センター広報活動	
i) WEB上での情報発信	
ii) 広報ツールの作成・更新	
(2) ボランティア活動支援センター研究会	
(3) コーディネーターのスーパーバイズ	
(4) 研究・勉強会参加実績	
(5) 視察対応	
(6) 活動発表・講師対応	
(7) 外部委員	
資料集	50
(1) 聖学院大学ボランティア活動支援センター内規	
(2) ボランティア活動支援センター運営委員一覧（2021年度）	
(3) ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項	
(4) メディア出演・掲載	
(5) 広報ポスター各種	

新入生のボランティア意識調査 —「2021年度新入生アンケート」から—

1. 調査の目的と概要

聖学院大学ボランティア活動支援センターでは、新入生のボランティアへの意識や活動の意向を明らかにすることを目的として、2021年4月にIR課・ボランティア活動支援センター共催でWebアンケートを実施した。

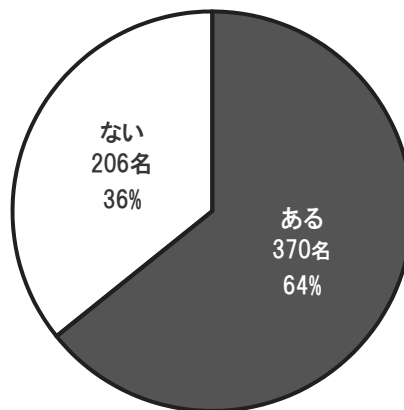
2021年度春学期新入生及び編入生592名（新入生586名、編入生6名）のうち576名から回答を得られた。今後さらに魅力的な活動マッチングや新規プロジェクト立ち上げへの支援などに活かしていくため、ボランティア活動に関連した回答を抜粋し、このアンケート結果を活用する。

2. 調査結果 ※小数点以下は四捨五入で算出

(1) ボランティア活動への関心について

あると答えた学生は64%（370名）で、ないと回答した学生の36%（206名）を大幅に上回る結果となった（図1）。

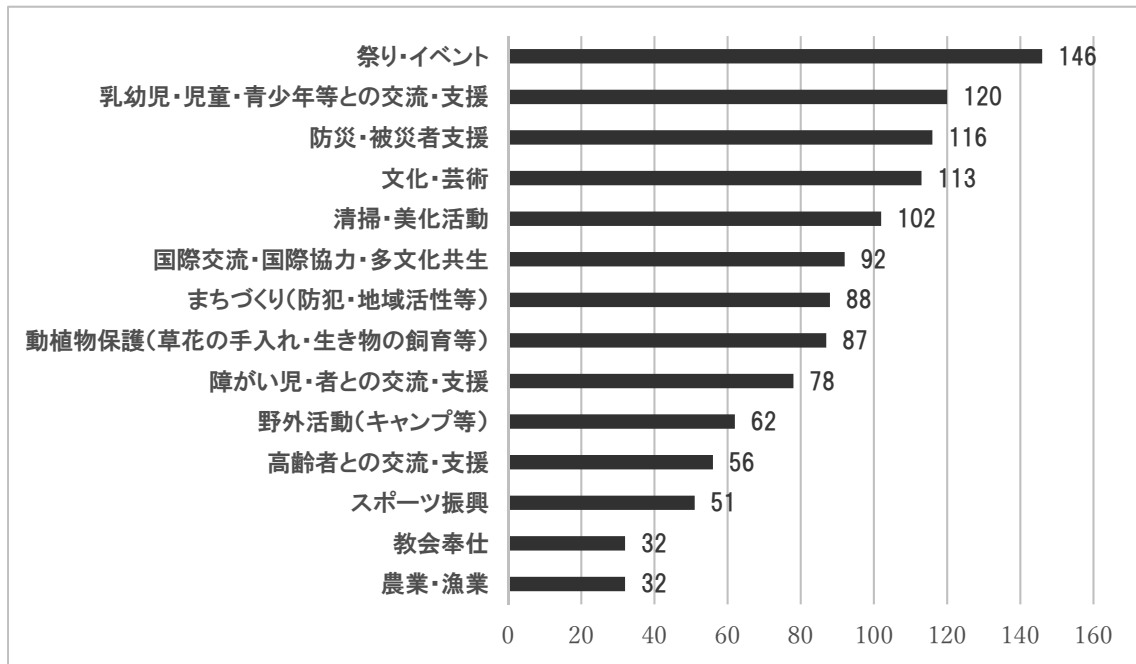
図1. ボランティア活動に関心があるか



(2) 関心があるボランティア活動について

関心があるボランティア活動の分野を複数回答で尋ねたところ（図2）、最も多かったのは「祭り・イベント146名」で、次に多かったのが「乳幼児・児童・青少年との交流・支援120名」であった。

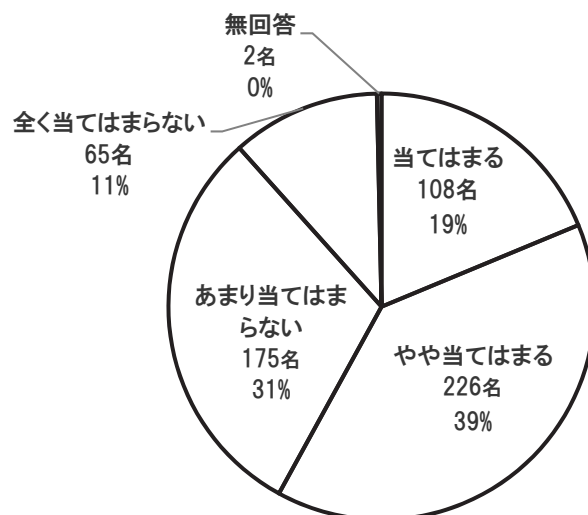
図 2. どのようなボランティア活動に関心があるか(回答者 370 名/複数回答可)



(3) 聖学院大学に入学した理由

入学した理由のうち「ボランティア活動が盛んだから」の回答結果は下図(図 3)となり、「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した学生は全体 58% (334 名) と 5 割以上の新入生が「ボランティアが盛ん」という認識でいることが分かった。

図 3. 入学理由のうち「ボランティアが盛んだから」



センター年間行事一覧(主催・共催・協力事業等)

月	日	概要
2021年4月	7日	第98回センター運営委員会
	6日	「オンラインボランティアに必要なスキルを学ぼう」実施
	13～15日	「ボランティア勧誘 DAY!!」実施
	22日	「ミャンマーの今を知る」実施
	28日	第99回センター運営委員会
5月	17日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	26～27日	「ボランティア・まちづくり活動助成金」応募説明会
	31日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
		「学生サポートメンバー養成講座 第1回」実施
6月	2日	第100回センター運営委員会
	7日	「学生サポートメンバー養成講座 第2回」実施
	11日	「第1回 サポメン! ボランティアサロン」実施
	14日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
		「学生サポートメンバー養成講座 第3回」実施
26日	「ボランティア・まちづくり活動助成金審査会」実施	
7月	1日	「ボランティア・まちづくり活動助成金交付式」実施
	5日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	7日	第101回センター運営委員会
	9日	「第2回 サポメン! ボランティアサロン」実施
	16日	学生サポートメンバー修了式
8月	27～28日	「東北“オンライン”スタディツアー」実施
9月	8日	第102回センター運営委員会
10月	6日	第103回センター運営委員会
	12日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	26日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	27日	第104回センター運営委員会
	29日	「第3回 サポメン! ボランティアサロン」実施
11月	9日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	15日	「直接会わなくてもできる! 楽しい活動の作り方(基礎編)」実施

11月	16日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施 「タイ北部の子どもたちの学びを止めないために」実施
	22日	「直接会わなくてもできる！楽しい活動のつくり方（実践編）」実施
12月	1日	第105回センター運営委員会
	10日	「第4回 サポメン！ボランティアサロン」実施
	21日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
2022年1月	5日	第106回センター運営委員会
	14日	「ボランティア・まちづくり活動助成金」報告会実施
	17日	「引継ぎイベント」実施
	18日	「シトラスリボンプロジェクトリボン製作会」実施
	19日	「葦ストローワークショップ」実施
2月	2日	第107回センター運営委員会
	9日	聖学院中学校 LLT 授業協力
3月	2日	聖学院中学校 LLT 授業協力

各事業報告

1. ボランティアプログラム

(1) 学生サポートメンバー養成講座

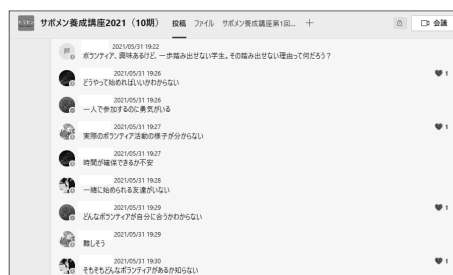
当センターは「学生と共につくる・育つセンター」として、学生サポートメンバー（通称：サポメン！）の養成に力を入れている。サポメン！は、ボランティアを実践している学生自身が他の学生を巻き込みボランティアのきっかけをつくるとともに、学内外の学生ボランティアを盛り上げるための企画・運営を行う役割が期待されている。そのため、現役サポメン！の協力も得て養成講座を実施し、サポメン！として必要となる考え方や基礎的な知識・技術を体験的に学び、講座終了後に活躍していけるよう支援している。同時に講座を通して、受講生同士・先輩サポメン・コーディネーター・他大学の学生との関係づくりも図っている。

今年度は昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大の影響によりオンラインで実施した。



第1回「学生サポートメンバーの役割と可能性」

初回ということで、なぜサポメン養成講座を実施しているのかボランティア活動支援センターのコーディネーターより説明し、さらに現在サポメンとして活動する先輩より活動の意義や魅力を紹介した。後半では、学生のボランティアの一步を後押しする策を考え、発表を行った。



日 時：2021年5月31日（月）18:15～20:00 オンライン開催（Teams）

参加者：受講生3名、現役サポメン1名

内 容：・参加者同士の自己紹介

- ・ボランティア活動支援センターの役割（願い・役割）
- ・学生サポートメンバー（サポメン）の役割とやりがい
- ・ワーク①「ボランティアの一步を踏み出せない理由」
- ・ワーク②「①の対応策を考える」

第2回「アイスブレイク100連発!？」

オンライン会議等で取り入れられているアイスブレイクについて学び、実践した。「アイスブレイクとは?」というレクチャーのあと、『オンラインのあたたかい場づくり自主研究ノート ver.1 (NPO 法人ハンズオン! 埼玉)』等の書籍も使用しながら、オンライン上で使えるアイスブレイクを参加者全員が実際に進化した。

日 時：2021年6月7日（月）18:15～20:00 オンライン開催（Teams）

参加者：受講生 4 名

内 容：・アイスブレイクとは

・アイスブレイク体験

(エアーキャッチボール、たけのこニョッキ、サイコロ自己紹介、宝物紹介)

・受講生によるアイスブレイクのネタを持ち込み実践

(100 を言ったら負け、Good & News、ほめてほめられて、ポーズ当てゲーム)

第3回「学内外のボランティア活動を知る」

ボランティアをしたい学生を実際の活動につなげるには、学生が参加できるボランティア活動についての情報・理解が不可欠となる。そこで、受講生、現サポメンが所属するボランティアグループの活動についてプレゼンをし合い、聖学院生が取り組むボランティア活動への理解を深めた。



日 時：2021 年 6 月 14 日 (月) 18:15~20:00 オンライン開催 (Teams)

参加者：受講生 3 名、現役サポメン 1 名

内 容：受講生、現役サポメン！による活動紹介と質疑応答

成果と課題

- ・受講生は昨年度から様々な学内ボランティア団体で活躍するメンバーが多く、新メンバー受け入れなど各々走り始めた中での開催だった。コロナ禍で授業がオンライン中心となり孤独感を感じていたり、オンライン上でメンバーと関係性を深めることに難しさを感じていたりする受講生も多い状況の中、少人数で密に楽しくコミュニケーションが取れたことで、「オンラインでもできるんだ」とそれぞれに気づき、エンパワメントにも繋がった。
- ・受講生が少数にとどまったのはコロナ禍の影響が大きいことが想定される。少数でも学生一人一人の意欲や能力が最大限発揮できるような状況をつくる必要を模索する。

(2)復興支援ボランティア事業

i) 東北“オンライン”スタディツアー

聖学院大学では、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災

以降、継続的に被災地の復興支援活動（復興支援ボランティアスタディツアー等）を行ってきたが、2020 年から新型コロナウイルス感染拡大により、対面での活動がすべて中止となった。この間に震災から 10 年が経過し「復興支援」という枠組みではない、東北との関わり方の模索が続いている。



今年度は昨年度に引き続き、オンラインを活用した2日間のスタディツアーを実施した。広く一般学生に向けて企画運営を行うプロジェクトリーダーを募り、週1~2に1回ペースで企画会議を設け進めた。東日本大震災への学びや現地の方々とのつながりを感じるとともに、次なる災害に備える防災知識の向上を図ることを目的とした。

日 時：2021年8月27日(金)13:00~16:00、28日(土)10:00~16:00

オンライン開催 (Zoom)

共 催：聖学院大学学生有志

参加者：学生14名(内、企画運営スタッフ7名)、教職員9名、卒業生1名、

同法人2名(女子聖学院高等学校生徒)、

外部3名(自由の森学園高等学校生徒2名、教員1名) 計29名

ゲスト：佐藤敏郎さん(小さな命の意味を考える会代表)、佐野里奈さん(岩手大学3年生)

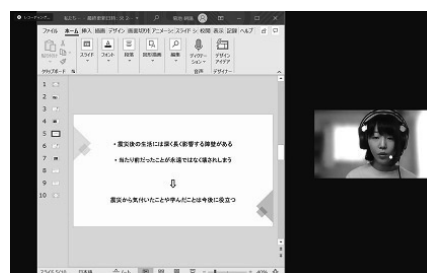
内 容：

《1日目》

東北にルーツを持つ学生がそれぞれ見てきた東日本大震災についてと地域の魅力を語った。2日目に向けた映像視聴による事前学習も行った。

《2日目》

東日本大震災で津波に襲われ74名の児童、10名の教職員が亡くなった石巻市震災遺構大川小学校で語り部としても活動されている『小さな命の意味を考える会』の佐藤敏郎先生にオンライン中継で大川小を案内いただきながらお話を伺った。また、震災当時岩手県釜石市立鶴住居小学校4年生で、高校生の時に母校で自身の経験を元に防災プログラムに取り組みされた佐野里奈さん(岩手大学3年)に、企画学生との対談形式でお話を伺った。



成果と課題

- 昨年度までツアーを協働で企画をしてきた復興支援ボランティアチーム【SAVE】が活動を引き継ぐ学生が不在となってしまい昨年度末に休止となった。しかし今年度に入り、個別で「大学で東北の復興支援活動をしていると聞いた。活動に興味がある。」と尋ねてくれる学生が相次いだ。これを受けて、関心のある学生に、ツアーの企画を行わないか呼び掛けたところ7名の学生が集まった。親戚が東北に住んでいる学生や、これまで東北と接点を持ってこなかった学生など様々なかたちで関心を寄せてくれた学生たちと震災について学ぶところから始め、協働で企画に取り組んだ。企画に参加したメンバーの「震災を経験した同世代の話が聞きたい。」「震災のことばかりではなく、東北の魅力を発信したい」という声によって、これまでにない、つながりや企画を生む機会となった。

- ・ツアー終了後、企画に携わったメンバーより活動を継続したいとの意向があり、学生たちで話し合ってもらった結果、学生有志団体「リアス」が誕生した。

ii) 釜石「キッズかけっこ教室」

本学では 2018 年度より、社会福祉法人愛泉会かまいしこども園の園児を対象とした「キッズかけっこ教室」を陸上競技部とボランティア活動支援センターの共催により実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症のため中止となった。



(3) 学内ボランティアプログラム

i) シトラスリボンプロジェクトリボン製作会

「シトラスリボンプロジェクト」は、新型コロナウイルス感染症による誹謗中傷や差別をなくそう、「ただいま、おかえり」と言い合える優しいまちでありますようにという願いを込め、愛媛県内で生まれたプロジェクトで、埼玉県内でも取り組みが広がっている。学生がこの活動に協力するきっかけづくりとして、上尾市内でシトラスリボンの輪を広げている『シトラスリボンプロジェクト IN さいたま』と連携し、学内にて定期的にリボン製作会を実施した。



開催日時と参加者数：

第1回	2021年5月17日(月)	12:20~12:55	13名
第2回	2021年5月31日(月)	12:20~12:55	8名、教職員1名
第3回	2021年6月14日(月)	12:20~12:55	9名
第4回	2021年7月5日(月)	12:20~12:55	12名
第5回	2021年10月12日(火)	12:20~12:55	4名
第6回	2021年10月26日(火)	12:20~12:55	4名
第7回	2021年11月9日(火)	12:20~12:55	8名
第8回	2021年11月30日(火)	12:20~12:55	20名
第9回	2021年12月21日(火)	12:20~12:55	17名
第10回	2022年1月18日(火)	12:20~12:55	10名
のべ	学生105名、教職員1名		計106名

全て対面開催

ゲスト：市川富代子さん、安藤由美さん（第1回のみ）

（シトラスリボンプロジェクト IN さいたま）

内 容：・活動の説明

- ・自己紹介／アイスブレイク
- ・シトラスリボンの製作

成果と課題

コロナ禍で学生の対面課外活動が制限される中、想いはあるがオンラインボランティアには抵抗がある学生が気軽に参加し、学生同士の交流の場としても機能した。受け皿が大きいのがこの活動の最大の魅力で、尚且つ、コロナ禍で一人ひとりが直面する孤独感や混沌とした世の中への不安感を話し合えるきっかけにもなった。



ii) 葦ストローづくりワークショップ

過剰なプラスチックの利用が海洋汚染などの環境問題を引き起こす原因の一つとなっていることから、日本でもレジ袋の有料化などプラスチック削減の取り組みが加速している。上尾市を流れる“鴨川”の保全を行い快適な河川環境を目指し、美化活動等に取り組む「鴨川水辺サポーターの会」の皆さんにご提案いただき、水辺に生える“葦”を使ったストローづくりを実施した。

日 時：2022年1月19日(水) 10:40~12:10 対面開催

協 力：鴨川水辺サポーターの会

参 加：学生2名、教職員1名

講 師：古屋 禎之さん（鴨川水辺サポーターの会）ほか

内 容：・ミニ講義「プラスチックがもたらす環境破壊について」

・葦ストローづくり

・意見交換



成果と課題

参加人数は少なかったが、日頃環境問題に関心を持つ学生に向けて、プラスチック製品の利用についてあらためて考える機会を創出することができた。また、身近な植物がプラスチックストローの代用品になること、またそれは気軽に生活の中に取り入れることができることを発信することができた。



(4) ボランティア研修

i) オンラインボランティアに必要なスキルを学ぼう！

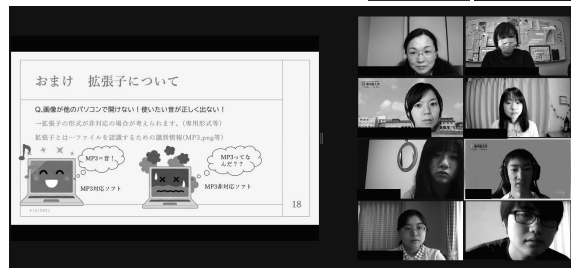
聖学院大学ではコロナ禍でのあらたな活動としてオンラインでのボランティア活動が広がりつつあったが、よりよい活動を行うためにはパソコン操作等のスキルが必要となる。そこで、既にオンラインボランティア活動に取り組む学生を対象に、この1年オンライン活動を縁の下の力持ちとして支えてきた在学生からそのスキルを学ぶ会を実施した。

日 時：2021年4月6日（火）13:00～15:00 オンライン開催（Zoom）

参加者：学生4名

講師：森悠希さん（心理福祉学科4年、あそび場オンラインプロジェクト、復興支援ボランティアチームSAVE）

内 容：オンライン活動で使える音響ソフトの紹介と実践方法について



成果と課題

日頃オンラインで活動している3団体の中心メンバーが受講し、オンライン上での音響利用に長けた先輩から後輩たちが具体的に使用アプリを使って実践的に学ぶことで、スキル伝承を行うことができた。今後も1団体の一部の学生が持ちうるスキルを他の学生たちに伝える機会をつくっていきたい。

ii) 直接会わなくてもできる！楽しい活動の作り方

新型コロナウイルス感染症のため、大学では条件付きで対面活動を認めているが、その条件をクリアできず対面活動ができず、オンラインでの会議や活動等を実施する意味を見出せずに、活動を諦めてしまう団体が少なくない。また、活動のオンライン化が進んでいる団体であっても、オンラインでの会議が上手く進行できていない団体が多く、活動に関心がある学生が会議を見学したものの、加入につながらないケースや、発言者や活動の役割を担うメンバーが固定しているケースが見られる。



このような状況を改善することを目的に、課外活動に取り組む学生を主な対象として、オンラインで楽しく会議や活動を行うコツを実践交えて研修を日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）、学生支援課と連携して実施した。

基礎編

日 時：2021年11月15日（月）18:00～20:00

対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催

共 催：日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）、学生支援課

参加者：学生32名、教職員3名、学生支援課4名、ボランティア活動支援センター2名
計41名

講 師：足立さとみさん（NPO法人CRファクトリー、NPO法人リスニングママ・プロジェクト代表理事）

ゲスト：三矢 楓さん（NPO法人コモンビート）、橋本 空さん（へりぽーと、町田市地域活動サポートオフィス）

内 容：①アイスブレイク

②個人ワーク「オンライン化して大変だったこと」（チャット）

③チャットで気になるものについて講師より質問やコメント

④ゲストより実践例を通じたオンラインの気軽さ、魅力紹介

⑤ゲストよりオンラインに慣れるメリットを紹介

⑥個人ワーク「これからの活動の理想を描いてみよう」



実践編

日 時：2021年11月22日（月）18:00～20:00

対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催

共 催：日本財団学生ボランティアセンター（Gakuvo）、学生支援課

参加者：学生14名、教職員1名、学生支援課4名、ボランティア活動支援センター2名
計21名

講 師：足立さとみさん（NPO法人CRファクトリー、NPO法人リスニングママ・プロジェクト代表理事）

内 容：①グループワーク 「参加者自己紹介」

- ②講義「コロナ時代にコミュニティ活動に起きていること」、
「オンライン化をどう進めるか」
- ③個人ワーク→グループワーク「オンライン化に向けての工夫・事例」
- ④全体共有
- ⑤講義「オンラインのキーポイント・ノウハウ」、「楽しい活動」への新基準
- ⑥個人ワーク「やりたいことを掘り下げる」
- ⑦グループワーク「自分の団体でやってみたいこと」「どのようにやるか」
- ⑧全体共有

成果と課題

- ・学生支援課と連携して実施することで、ボランティア活動団体のみならず課外活動団体全般が抱える課題を整理し、講座を企画することができた。
- ・コロナ禍で対面活動が制限される中、活動を諦める団体がほとんどということが事前ヒアリングから分かったが、オンラインの良さや気軽さに触れてもらうため、基礎編、実践編の2ステップで実施したことで、響いた学生が多かった。



(5) 視野を広げるボランティア教養講座の実施

社会の課題と向き合うための教養講座を実施し、学生たちとともに社会の諸問題と向き合い、学ぶ機会を持っている。

i) ミャンマーの今を知る

ミャンマー国軍によるクーデターにより軍の統治下に置かれたミャンマーでは、市民らによる抗議活動が続き多くの犠牲者が出ている。他人事で終わらせず、関心を寄せ、歴史、文化、国際情勢などさまざまな視点から共に学び考えるため、国際交流センターと共催で実施した。

日時：2021年4月22日（木）12：20～12：55

対面とオンライン（Zoom）のハイブリッド開催

共催：国際交流センター

参加者：学生17名（対面）、42名（オンライン） 計59名

ゲスト：荻野 茶々さん（ガリラヤ丸子町キリスト教会牧師）

内容：・ミャンマーってどんな国？

・今、ミャンマーで起きていること



- ・質疑応答

成果と課題

《参加者の感想》

- ・自分が思っている以上に深刻な状況であることを認識しましたし、そもそも自分の関心の低さに対して反省することが多くありました。おそらく自分にできることがあまりないと思って目を伏せてしまっていた気がします。しっかり認識をして自分に何ができるのかを考えるべきだと思いました。
- ・少しの間でしたが、話を聞いたことは何かのきっかけになると思います。自由って当たり前なものじゃなかったんだ、と気づかされました。
- ・今の自分の事、立場をもう一度考え直すきっかけになったと思う。
今後も世界について世界の人々について思いを巡らせ、この時代に沿ったワールドワイドな視野を目指さなければならないと思う。



ii) タイ北部の子どもたちの学びを止めないために

—アブ・アリ財団支援プロジェクト活動説明会—



タイ北部の経済的な理由で学ぶことが困難だったり、無国籍であることから進学や就職を制限されてしまったりしている山岳民族の子どもたちが直面する課題を学び、自分たちに何ができるかを一緒に考える時間を持った。あわせて、オンラインでできる国際協力の紹介を行った。実施にあたっては、山岳民族の子ども達の支援を行うアブ・アリ財団支援プロジェクトとの共催で実施した。

共 催：アブ・アリ財団支援プロジェクト

日 時：2021年11月16日(火)12:15~12:55

対面とオンライン（Teams）のハイブリッド開催

参加者：学生：14名、教職員：6名、外部：2名 計22名

講 師：伊藤 豊先生（アブ・アリ財団支援プロジェクト、聖学院中学校高等学校教諭）

内 容：・タイ北部の子ども達の状況報告

・意見交換

・オンラインでできる国際協力の紹介

成果と課題

- ・タイ北部の山岳民族の子どもたちが直面している社会課題のみならず、コロナが海外の支援を必要としている団体の運営にも大きな影響をもたらしているなど複雑化する社会課題の現状も捉えて学ぶ機会をつくることができた。
- ・オンラインで日頃から海外と繋がり支援活動に取り組む、という新たな海外支援のかたちを学生たちに示すことができた。

(6)夏ボラ説明会

夏期休暇は期間が長く、各市町村の社会福祉協議会が打ち出す「夏のボランティアプログラム」などボランティアデビューに適して来る。コロナ禍で新学期に課外活動の波に乗り遅れた学生向けに、自宅やオンラインで参加できる活動などを紹介する説明会を企画したが、申し込みがなかったため中止となった。

日 時：2021年7月15日（木）12:20～12:50

対面とオンラインのハイブリッド開催

**成果と課題**

説明会の需要はなかったが、「夏のボランティアプログラム」に関するセンター窓口での個別相談対応は行った。新型コロナウイルス感染症の影響で、各地域の社会福祉協議会が提示するボランティアプログラムはオンラインが中心であったが、4件のマッチングができた。オンライン化に伴い、より丁寧な対応が必要であったため、個別対応が適当であった。

2. 学生サポートメンバー(サポメン!)との連携

学生サポートメンバー(通称:サポメン!)は、聖学院大学におけるボランティアの活性化を目的として組織され、今年度はサポメン7期生から10期生を中心に自分たちにできる活動を実施している。本年度は、コロナ禍でもボランティアの火を絶やさないということで新たに「サポメン!ボランティアサロン」を企画するなど活発に活動した。

(1)ボランティア勧誘 DAY!!

例年、新入生に向けた学内外のボランティア団体活紹介イベントを、サポメン!と共に実施している。今年度は新型コロナウイルス感染症対策として野外で、3日間開催した。

日時:2021年4月13日(火)、14日(水)、15日(木)12:10~13:00

対面開催(1号館前芝生広場)

参加者:ボランティア団体21名(7団体)、来場学生29名 計50名

参加団体:

- ・防犯ボランティアチームSTOP
- ・あそび場オンラインプロジェクト
- ・🌸いろとりどり🌸
- ・防災戦隊マモルンジャー
- ・Petite Arche
- ・みつばちプロジェクト(仮)
- ・ヤングボランティアグループコスモス(※学外団体)



成果と課題

- ・対面とオンライン併用の授業構成になっていることから、学生によって来校日が異なるため、3日間開催することで各々の来校日に合わせて気軽に参加する機会を創出した。
- ・参加した学生のうち7名が団体への加入を決定した。ほかの学生についてもセンターで個別に活動の希望について確認し、活動参加に向けたフォローを行っている。
- ・今回は春学期の授業開始と同時に行ったので、1年生がまだ友達づくりができておらず、単独で行動できる新入生のみでの参加だった。

(2) サポメン！ボランティアサロン



サポメン！からの「ボランティア活動をしている学生個人の想いを聞き、もっと深く知り合える場を、少人数でいいので対面中心で作りたい」という提案から、サポメン！が自分の活動に対する想いを語る連続企画として実施した。

第1回

日時：2021年6月11日（金）12:15～12:55

対面とオンライン（Teams）のハイブリット

参加者：学生15名（サポメン：8名、一般参加学生：7名）、コーディネーター3名

内容：サポメン！を中心にボランティア活動に関する話題提供をし、その後参加者でグループに分かれ意見交換をする。

- ・話題提供者：中川留奈（心理福祉学科3年）
- ・話題：シトラスリボンプロジェクトの活動
- ・進行：金久保仁（児童学科3年）

成果と課題：

- ・ボランティア活動を行う学生から「自分とは違う視点での意見が聞けて良かった」といった感想が多くあり、活動の情報交換だけでなく、個人の想いを聞き合い語り合う場のニーズの高さが伺えた。



第2回

日時：2021年7月9日（金）12:15～12:55

対面とオンライン（Teams）のハイブリット

参加者：学生13名（サポメン：7名、一般参加学生：6名）教員1名、スタッフ3名

内容：サポメン！を中心にボランティア活動に関する話題提供をし、その後参加者でグループに分かれ意見交換をする。グループディスカッションの際、対面参加者とオンライン参加者を混ぜた“ハイブリットグループ”を新たに設置。

- ・話題提供者：馬場毬乃（日本文化学科3年）
- ・話題：学生団体「あそび場オンラインプロジェクト」の活動
- ・進行：金久保仁（児童学科3年）

成果と課題：

- ・今回は個人の出会いだけでなく、団体同士の交流を喜ぶ声もあり、サロンの多様な意義を感じた。
- ・ハイブリットグループの設置を新たに試したが、チャットを活用する、表情を大きくする等、オンラインで交流を深めていく方法を試す実践の場となり、手ごたえがあった。
- ・口コミや授業内告知など広報にも力を入れたが、参加者は少数にとどまっており、特に1

年生の参加がなかった。

第3回

日時：2021年10月29日（金）12:15～12:55

対面とオンライン（Teams）のハイブリット

参加者：学生22名（サポメン：8名、一般参加学生：14名）、教職員3名、スタッフ3名

内容：「ボランティア活動を就活に活かした先輩の経験談を聞こう！」をテーマに、サポメン！による話題提供とグループディスカッション。

- ・話題提供者：福澤恵美（心理福祉学科4年）
- ・話題：公民館との連携で実施した子ども向けヒップホップ教室や、防災戦隊マモルンジャーなどボランティア活動の話を通して、就活で自分をPRできた経験について
- ・進行：馬場毬乃（日本文化学科3年）

成果と課題：

- ・参加者アンケートより：「ボランティアを通して得た経験・学びは本当に社会で生きると改めて感じた時間でした！」、「活動の内容よりも意気込みや姿勢を見られるということも分かったので、今一度、自分の活動の仕方を見直してみたい」
- ・サロンの最後にサポメン！それぞれの活動紹介やセンターからの最新ボランティア情報を提供したところ、早速動く学生がいた。

第4回

日時：2021年12月10日（金）12:15～12:55

対面とオンライン（Teams）のハイブリット

参加者：学生18名（登壇者、サポメン：7名、一般参加学生：10名）、教職員2名、スタッフ3名

内容：「ボランティア活動を就活に活かした先輩の経験談を聞こう！」（第2弾）

- ・話題提供者：飯島阿悠（政治経済学科4年）
- ・話題：中高校生向けキャリア体験講座運営や、病気の子どもとその家族の宿泊等支援、保護猫活動などを通して就活で自分をPRできた経験について
- ・進行：浦部蒼士（日本文化学科2年）



成果と課題：

- ・今年度からサポメンになった2年生がサポメン以外の学生ゲストに出演を交渉し、初の進行を務めた。4年生との共同作業の効果もあったのか、自ら「とても成長できた」と振り返れるほどに準備に力を入れ、学びを得られた。

- 登壇者の発表内容から「ボランティアに取り組む意気込みや姿勢が大切」ということを参加者が学んだ様子が伺えた。

(3)サポメン!ミーティング

毎週 1 回昼休み、企画に応じて随時対面とオンライン（Teams）でミーティングを行った。



3. 学内ボランティア団体の育成支援

(1) 団体の活動・運営支援

センターでは個人のボランティア相談のほかに、団体の活動相談にも応じている。活動に関するアドバイスや役立つ情報の提供に限らず、必要に応じてファシリテーターとして団体の会議に出向いたり、外部団体とのマッチング等もしている。

主な相談内容：

- ・組織運営や世代交代引継ぎに関すること
- ・メンバー間のコミュニケーションに関すること
- ・メンバーのモチベーションアップに関すること
- ・新入生の巻き込み方
- ・広報に関すること
- ・具体的な活動内容の相談
- ・地域の連携団体や活動先について
- ・オンライン活用のノウハウについて など



(2) 団体の立ち上げ支援

「東北“オンライン”スタディツアー」の企画・運営に携わった学生有志メンバーを中心に、災害支援や防災学習、東日本大震災に学び未来を拓く活動を行う団体を新たに立ち上げることになった。立ち上げに当たり、活動目的・内容の洗い出しやまとめ、団体名や役員決め、復興支援ボランティアチーム【SAVE】の4年生と繋げ、後継団体として活動していくことの確認や走り出しを支援した。



(3) 活動継続支援

コロナ禍で活動の機会が失われたことで、多くの団体がメンバー募集に苦戦した。現メンバーは4年生だけ、もしくは実習期間に入る3年生だけという、今年度新メンバーが集まらなければ解散、もしくは活動休止の決断をしなければならぬ団体もあった。そのような状況にあった、「手話同好会しゅわっち」、「防災戦隊マモルンジャー」より、活動に関心のある学生に話をする機会をつくりたいとの相談を行って、説明会やマッチング、新メンバーだけで活動を始められるようなフォローを丁寧に行った。結果、次世代に活動が引き継がれた。



(4) 引継ぎイベント

学内で活動する学生ボランティア団体は、以前より先輩から後輩への引継ぎが十分に行えずに団体運営に支障が出ていたり、新型コロナ



ウイルス感染拡大の影響で団体の存続も困難な状況に陥っているケース等が散見されていた。センターとしてどのようなアプローチがよいか模索し、効率的かつ効果的な引継ぎを行える場としての引継ぎイベントを実施した。以下を狙いとしている。

- ボランティア活動に関わる学生一人一人のエンパワメント
- 失敗しても大丈夫だという安心感の醸成
- 引継ぎの重要性を認識する
- そもそも引き継ぐとはどういうことかを具体的にイメージできるようにする

日 時：2022年1月17日(月)18:00~20:30 オンライン (Zoom) 開催

参加者：学生22名(7団体)

対 象：ボランティア活動支援センターで支援をしているボランティア団体全般

内 容：①清水学長より開会挨拶(ビデオ上映)

②引継ぎの意義とは

③卒業生による引継ぎ失敗談&こうしておけばよかった集／

先輩後輩の微妙な関係・いい関係集の報告

▶課外活動を行っていた卒業生を対象に実施した事前アンケートの報告

④ワークⅠ：「引き継ぐこと・引き継ぎたいことの洗い出し」

▶引き継いでいく後輩たちを対象にした事前アンケートの報告

▶何を引き継ぐのか、また引き継ぎたいのかについてグループワーク

▶“引継ぎリスト”の項目を作成

⑤ワークⅡ：「“引継ぎリスト”に基づく引継ぎの共有」

▶同一団体の先輩・後輩でグループに分かれ、“引継ぎリスト”を埋める

⑥感想のシェアとアンケート

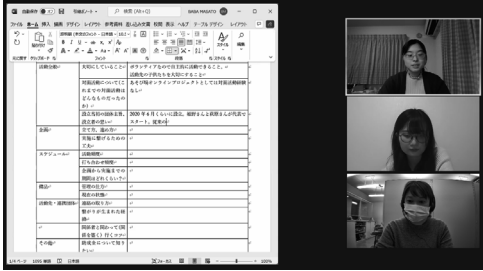
成果と課題

- 初めての試みであったが、引継ぎの重要性への気づきのみならず、引き継ぐ先輩にとっては活動を振り返る時間としても機能し、また後輩にとっては活動を担っていく自覚を持つ一つのきっかけにもなった。
- センターとしては学生の活動にどこまで関与するかという観点から今回の開催には少しの葛藤があったが、これまで活動してきた4年生に対して参加型かつ自然なはなむけイベントとしての位置づけにもなった。
- 参加学生の反応から、センターに求められているのは〈先輩世代と後輩世代が安心して対話できる場づくり〉、〈効率的かつ効果的な話ができるような枠組み整理の手伝い〉、〈分からなくてもよい、失敗してもよい、という保証機能〉等であることが伺えた。



自分が後輩に引き継ぐとき こうしておけばよかった！

- もう少し不安等がないか話を聞いて相談にのってあげたかった。
- 後輩とどのように進めていけばいいのかなどの打合せ時間を
もっと多く取る必要があった。
- 後輩同士の交流の場を設けてあげたかった。
- 模造紙などの成果物を今思えばもっとしっかり作りたかった。
作成方法など引き継げなかったので後輩たちには申し訳なかつた。
- 後輩に引き継いで欲しい内容をリスト化してもらい、それを記録に残る形で答えることができたらよかった。



先輩のこの関わり嬉しかった！

- 主催したイベントに先輩が参加してくれて、その時にいろんな事をすぐ相談できた。
- ちょくちょく声をかけてくれた。相談しやすい雰囲気づくりがありがたかった。
- 食事に誘ってくれて、その場で相談に乗ってくれた。
- 卒業した先輩が会いに来てくれた。

4. ボランティア団体サポート制度

(1) ボランティア・まちづくり活動助成事業

i) ボランティア・まちづくり活動助成事業

活発にボランティア活動に取り組む学生が一人でも増えること、助成金申請を通して、自分たちの「伝えるカ=プレゼンカや事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に学生の取り組みについて知っていただくことを目的として実施している。また本事業はボランティアグループに限らず、教育活動の一環として地域貢献にかかわるゼミについても本助成金の活用が広がるよう推進している。実施にあたっては本学同窓会と共催し、学生たちへの助成金 20 万円の支援をいただいた。

今年度は新型コロナウイルス感染症のため、公開審査会の際に来場者が任意で学生を直接応援できる「ドネーションパーティー」については中止し、学内教職員のみ寄付を募った。

また、2019 年度から上尾社会福祉協議会に協力いただき、地元上尾市で活動する団体を対象に、赤い羽根共同募金からの助成金を受けることができる取り組みも行っている。赤い羽根の街頭募金に参加経験のある中学生が審査員になることで、より地域に根差した視点や地域から応援されている実感を持って活動に取り組んでもらう機会となっている。

共 催：聖学院大学同窓会、上尾市社会福祉協議会



実施スケジュール

日にち	実施内容
5月26日(水)、 27日(木)	〈オンライン説明会兼研修会〉 応募を予定している学生グループを対象に応募概要の説明を行った。
6月16日(水)～ 18日(金)	〈公開審査会リハーサル〉 申請団体を対象に審査会本番を想定して発表練習の時間を持った。
6月26日(土)	〈公開審査会〉 第一次審査では、申請団体のプレゼンテーションと書類をもとに審査を行い、ポイント数によって助成金交付の有無と交付額を決定。同窓会からの助成金については審査員と学生審査員(各申請団体)が審査し交付の有無を、赤い羽根助成金については中学生審査員が審査し交付額を決定した。 第二次審査会では、同窓会からの助成金交付決定団体への助成額を、獲得ポイントを参考に審査員で話し合い、決定した。
7月1日(木)	〈助成金交付式〉 同窓会からの助成金、赤い羽根助成金交付団体に対して、助成金

	の交付を行った。また、助成金の使用用途や報告書類の記入方法について説明を行った。
2022年 1月14日（金）	〈活動報告会〉 助成金交付団体による活動報告会を実施し、審査員が参加した。審査員には各活動について講評をいただき、後日、交付団体へのフィードバックを行った。

公開審査会審査員

NO	選出枠	肩書	氏名（敬称略）
1	大学同窓会	大学同窓会会長	島田大輔
2	ボランティア応援卒業生	東京都社会福祉事業団職員	檜原郁奈 前島沙紀
3	地域の方	上尾市ボランティア連絡会会長	本城文夫
4	地域の方	さいたま北商工協同組合副会長	新井一年
5	専門家（NPO 関係）	NPO 法人街のひろば理事長	松浦康介
6	専門家（ボランティア関係）	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	岡田淳一
7	大学	ボランティア活動支援センター所長	若原幸範
8	大学	地域連携・教育センター運営委員	氏家理恵

赤い羽根審査員	赤い羽根共同募金活動経験者である上尾市南中学校の生徒 4 名
---------	--------------------------------

申請内容と助成決定額

団体名	事業名	所属人数	申請額	決定額	赤い羽根助成額	寄付金	合計
✿いろいろとどろ✿	✿いろいろとどろ✿	8	43,100円	33,000円	3,500円	6,000円	42,500円
聖学院大学ボランティアアソシエーション・GRACE	GRACE ボランティアプロジェクト2021	34	50,000円	30,000円	3,000円	4,000円	37,000円
あそび場オンラインプロジェクト	あそび場オンラインプロジェクト	13	50,000円	33,000円	2,000円	4,000円	39,000円
チーム防災教室	震災伝承防災講座	5	20,000円	12,000円	4,000円	6,000円	22,000円
みつけたかおのものがたり～どこでもえほんプロジェクト～	「みせる」えほん～広げる笑顔の輪～	12	50,000円	45,000円	3,500円	5,000円	53,500円
Petite Arche	Petite Arche 流SDGs ライフハック～野菜・ゴミ分別編	11	50,000円	47,000円	4,000円	6,000円	57,000円
合計				200,000円	20,000円	31,000円	251,000円

助成を受けた主な団体の活動実績

① Petite Arche

助成額：同窓会より 47,000 円、赤い羽根より 4,000 円

SDGs ゴール 12「つくる責任・つかう責任」を自分ごととして体験するため、大学や自宅で上尾の特産野菜を育て、ベジブロスクッキングに挑戦した。その紹介動画を制作し、聖学院 SDGs コンテスト PHOTO&MOVIE に応募したところ入賞。エコプロダクツ展 2021 において動画の紹介を行いながら、出展企業や他大学との積極的な交流を図った。また、育てた小松菜や水菜は学内の学食で使用された。

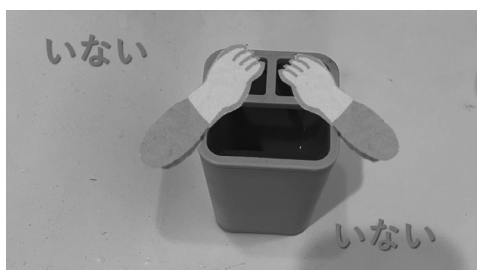


② みつけたかおのものがたり〜どこでもえほんプロジェクト〜

(児童学科造形教育論 柴崎ゼミ)

助成額：同窓会より 45,000 円、赤い羽根より 3,500 円

造形教育論のゼミで制作しているパワーポイントによるオリジナル絵本を用いた活動の 2 年目。昨年度は保育園だったが、今年度は新たに、福島と埼玉の 2 か所の小学校と連携し、読み聞かせを行った（オンライン）。小学校高学年向けに、絵本やゲームの内容・呼びかけを工夫し、子ども達と楽しい交流の時間を持つことができた。



③ いろいろとりどり

助成額：同窓会より 33,000 円、赤い羽根より 3,500 円

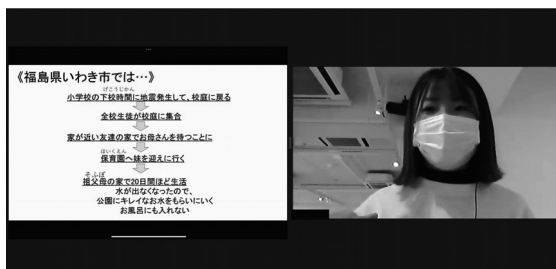
コロナ禍において孤独になりがちな「子育て期間」に、学生ボランティアとして少しでも寄り添いたいという想いで活動する団体。子育て支援を行う NPO 法人与連携し、乳幼児の親子対象に、オンラインによる交流イベントを 6 回行い、延べ 46 人が参加した。レクリエーションや手作りプレゼントを通して、親子向けに、継続的に楽しい時間を提供することができた。



④チーム防災教室

助成額：同窓会より 12,000 円、赤い羽根より 4,000 円

埼玉県防災学習センターと連携し、小学生対象の参加型の防災講座を実施し、身近なものを活用する防災グッズづくりを行った（オンライン）。また、聖学院中学校で防災講座を開催。地域によらない災害の恐ろしさと、日頃の備えの大切さを伝えることができた。



助成事業に関わった方々の声

①申請団体の声

- ・同窓会の皆様のご尽力により、ボランティア活動に必要な備品や、欠かすことのできないオンライン環境を常に整えることができ、毎回クオリティを上げて子どもたちと関わることができました。本当にありがとうございました。
- ・このたびは助成金を出資していただき、ありがとうございます。充実したボランティア活動を行うことができました。来年は社会人になるので、次は出資する側として後輩を支えていきたいと思えます。
- ・助成金をいただいたことで、金銭面の負担なくボランティア活動を行うことができました。同窓会の皆様に感謝しております。ありがとうございました。
- ・皆様のご厚意により、良い企画を作り上げることができました。ありがとうございました。

②審査員の声

- ・発表を聞いて、活動の幅が広がっているように感じました。活動の幅が広がることは団体としての成長の良い機会ですので、これからも活動の幅を広げていってほしいと思います。
- ・コロナ禍での活動（の模索）は大変だったと思います。これからもしかばらくは対面・オンラインの判断が難しい時期が続くと思いますが、頑張ってください。そんな中で実行できた活動については非常に具体的な報告が聞けて良かったです。活動を通して、学生たちもそれぞれ気づきがあったようで良かったです。
- ・とても意義のある活動だと思います。後を引き継ぐ皆さんの活躍も期待しています。
- ・1年を通して、良い活動ができたと思います。自分の成長にもつなげながら、周りをもっと笑顔にしてください。

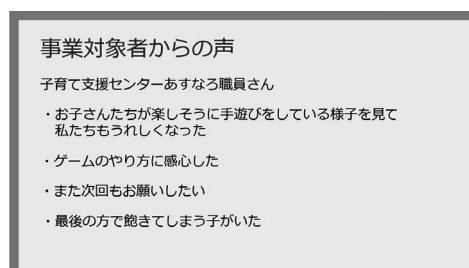
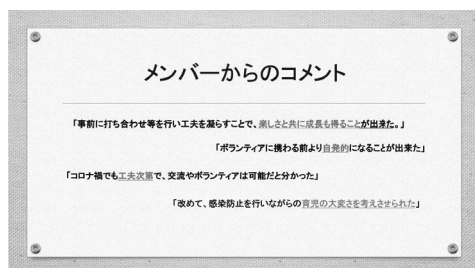
③赤い羽根審査員の声

- ・今までは募金する側だったのが、そのお金を決める側になって、どんなことに使われているのか、よくわかりました。みんなに伝えられたらいいなと思いました。

- それぞれのグループが地域のために活動していることを知れて、とても良い経験になりました。ボランティアをする相手のことを細かく考えているところが、とてもすごいと思いました。
- ボランティア活動の中で、いろいろ大変なこともあると思いますが、これからも頑張ってください。自分も中学生なりに、できることをしていきたいと思います。

成果と課題

- 今年は、新型コロナウイルスが流行して2年目となり、対面活動が制限された影響で助成金申請団体数も6団体と少なかったが、オンラインを活用して積極的な活動の展開が見られた。
- 対面授業も一部再開したため、審査会と報告会は人数制限しつつ対面で行った。ソーシャルディスタンスの確保、マイクの消毒など神経を使いながらの運営となったが、休憩時間に審査員と学生たちが和やかに雑談をする様子が見られ、対面の良さを実感した。
- 審査員から、審査基準についての質問や、申請書の書式改定の提案があった。助成事業も7年目も迎え、助成団体のレベルも向上していることから、センターで前向きに検討することになった。



ii) ボランティア・まちづくり活動助成事業検討小委員会

ボランティア・まちづくり活動助成事業は今年度で7年目を迎えた。赤い羽根審査員制度の制定など年度ごとに新しい試みを取り入れているが、7年の中で様々な課題も明らかとなっている。そこで、小委員会を立ち上げ、次年度以降の本事業の在り方について検討を行った。



第一回委員会

日 時：2021年9月21日（火）10:00～12:00 オンライン開催（Teams）

参加者：教員2名、学生2名、職員3名

内 容：本助成金事業の成果と課題の洗い出し、検討事項の整理

第二回委員会

日 時：2021年10月28日（木）13:00～ 対面とオンライン（Teams）のハイブリット開催

参加者：教員2名、学生2名、職員3名

内 容：検討事項の協議

成果と課題

- ・委員会の中で、申請する団体のレベルが上がっている一方で、新規でチャレンジがしにくい雰囲気があるという課題が挙げられ、検討を行った結果、継続して申請する団体向けに「継続助成（最大5万）」、初めて申請する団体と申請が1年空いた団体向けに「チャレンジ助成（最大3万）」として、申請書類の難易度が変わる助成金を来年度より設定することを決定した。
- ・申請金額が団体毎に異なるなかで、相対評価で審査を決定するのは難しいとの課題が挙げられ、検討を行った結果、来年度より絶対評価に変更することを決定した。

(2) 聖学院大学復興支援ボランティア交通費補助金

東日本大震災の被災地における復興支援ボランティア活動に取り組む本学の学生に対して交通費の補助を行っている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、交通費補助を活用した現地でのボランティア活動は中止となり、申請はなかった。

概要：・1年間に2回まで東日本大震災をはじめとした自然災害に関わるボランティア活動の交通費について、往復の場合は15,000円、片道の場合は7,500円を上限に補助を行う。

- ・補助に当たっては、事前に申請を行い、センター運営委員会にて決定する。
- ・補助を受ける者は、「活動証明書」「領収書」「活動レポート」の提出が求められる。



5. ボランティア情報のマッチング

(1) ボランティアマッチング相談対応

新型コロナウイルス感染症のため、大学 1 号館地下 1 階“地域共生広場 1cafe”の相談窓口にて行ってきた相談対応を昨年度から休止した。大学の警戒レベルに合わせ、相談対応を事前予約制に切り替えるなど、臨機応変に対応した。また、電話、メール、ビデオ電話、オンラインチャット（Teams、LINE@）等の様々なツールを活用し、ボランティアを希望する学生、ボランティアに関連した教職員の相談対応、そしてコロナ禍で取り組める活動の紹介や、オンラインを活用したボランティア活動への参加を希望する学生と学内外のボランティア団体とのマッチングを行った。

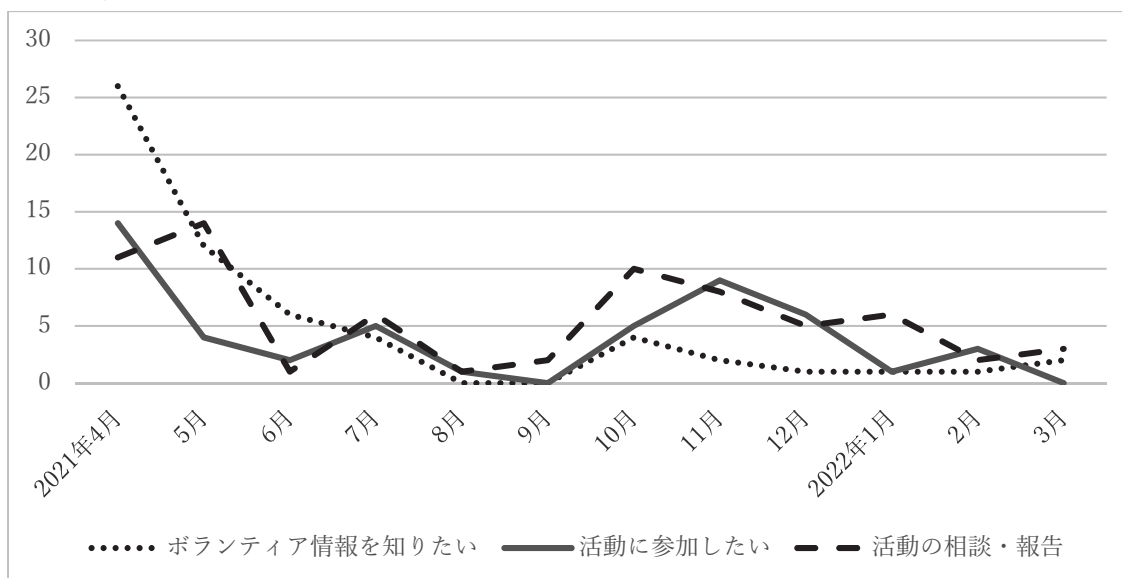


オンラインボラセンの開設

ボランティア活動に興味・関心のある学生が、ボランティアコーディネーター、学生サポートメンバー、ボランティア活動に取り組む学生たちとオンライン上で気軽に活動の相談などやり取りできる場を、4月から6月のあいだ週1回、Teams を利用し開設した。その後、対面での来室が戻ってきたため、6月末を持って閉室した。

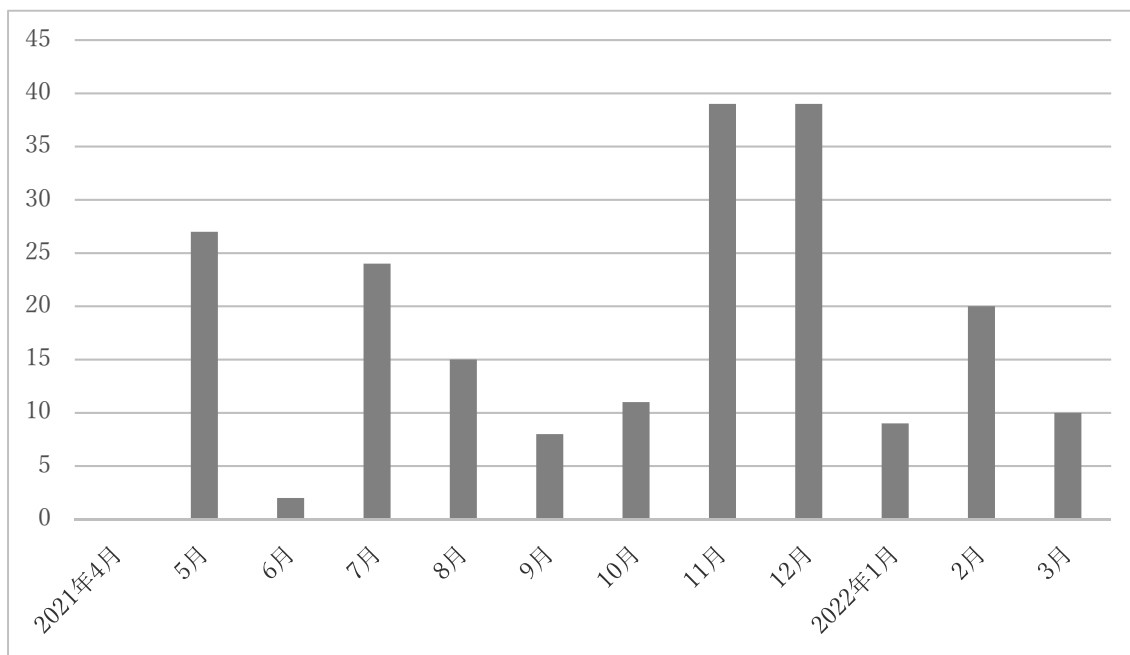
個人ボランティア相談件数と相談内容

相談件数:178 件内訳



新規ボランティアマッチング件数と活動内容

①月別マッチング者数 のベマッチング件数:204 件内訳



②主なマッチング先

月	マッチング先
2021年5月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトトリボン製作会
6月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトトリボン製作会
7月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトトリボン製作会 県内：認定NPO 法人彩の子ネットワーク
8月	センター主催：東北”オンライン“スタディツアー 県外：多摩ボランティア・市民活動支援センター
9月	県内：認定NPO 法人彩の子ネットワーク 県外：全国音訳ボランティアネットワーク
10月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトトリボン製作会 学内：防犯パトロール活動 県外：全国音訳ボランティアネットワーク
11月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトトリボン製作会 県内：楽しんでつながる会エンジョイント、 認定NPO 法人彩の子ネットワーク、 社会福祉法人一樹福社会子育て支援センターあすなろ、 NPO 法人とさき、 県外：京都YWCA、アブ・アプロジェクト

12月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトリボン製作会 学内：防犯パトロール活動 県内：楽しんでつながる会エンジョイント、 認定NPO 法人彩の子ネットワーク、 社会福祉法人一樹福社会子育て支援センターあすなろ、 NPO 法人とさき、埼玉県防災学習センター
2022年1月	センター主催：シトラスリボンプロジェクトリボン製作会、 葦ストローづくりワークショップ 県内：楽しんでつながる会エンジョイント、NPO 法人とさき
2月	県内：楽しんでつながる会エンジョイント、埼玉県防災学習センター 障がい児者芸術クラブ
3月	県内：こども☆夢☆未来フェスティバル

ご対応して下さった団体の皆様、大変お世話になりました。

(2) ボランティア情報の発信(掲示板・メールマガジン・LINE・Teams 等)

学生向けに、様々な媒体で学内外のボランティア情報を発信している。
センターや事業の周知については、ポスター等を作成して行っている。

(※製作物は資料編に掲載)



- i) ボランティア掲示板：大学1号館地下1階“地域共生広場1cafe”に相談窓口とあわせて設置している「ボランティア掲示板」では、学内外のボランティア情報のポスターを掲示している。
- ii) 学内ポータルサイト：学内ポータルサイトUNIPAにて、おすすめボランティア情報をまとめたニュースレターを中心に情報を配信している。
- iii) Teams / LINE@：昨年度からTeamsを活用したオンライン授業が導入されたことを受け、センターでもTeamsグループを開設し、配信希望者に月1～3回程度、不定期でニュースレターを中心におすすめボランティア情報を配信している。あわせて公式LINEアカウントもTeamsと同様に活用している。

iv) 登録者数、配信数：

• Teams

登録者数：229名（2022年10月現在）、配信数：52通

• LINE@

登録者数：174名（2022年3月現在）、配信数：46通

(3)学外団体からのボランティア募集相談対応



学生ボランティアを募集したい地域団体から相談をいただき、マッチングを行っている。

コロナ禍の大学の状況を踏まえ、学生には主にオンライン等、自宅でできる活動を中心にピックアップして紹介やマッチングを行った。

学外団体相談対応件数内訳

学外団体相談対応件数 35 件内訳

月	来訪	TEL	MAIL	その他
2021年4月	2	—	—	1
5月	—	2	—	1
6月	—	2	—	1
7月	1	3	—	—
8月	—	2	—	—
9月	1	1	1	—
10月	2	4	1	2
11月	—	—	—	—
12月	—	—	2	—
2022年1月	3	1	—	—
2月	—	—	—	—
3月	1	1	—	—
合計	10	16	4	5

6. 授業・学内イベントへの協力

(1) 授業協力

教員より依頼を受けて、ボランティア活動支援センターの紹介やコーディネーターの職能等に関する講義のため、次の授業にコーディネーターの派遣を行った。



日にち	授業名	対象学生	担当教員	講義内容
6月3日(木)	釜石学	全学	渡辺正人教授	東日本大震災とボランティア活動—本学も含めて
6月10日(木)				震災とボランティア—阪神淡路大震災から東日本大震災を巡って
6月24日(木)				釜石市における復興支援ボランティア活動
11月15日(月)	専門演習Ⅰ (生活支援論)	心理福祉学科	小沼聖治助教	センター紹介とコロナ禍におけるボランティア活動について
11月18日(木)	ボランティア概論/ボランティア論	政治経済学科 心理福祉学科 こども心理学科	川田虎男講師	ボランティアコーディネーターの役割
2022年 1月20日(木)	ボランティア概論/ボランティア論	政治経済学科 心理福祉学科	川田虎男講師	ボランティア実践のすすめ
1月21日(金) 、31日(月)	社会福祉援助技術演習A	心理福祉学科	猪瀬桂二准教授 長谷部雅美准教授 川村仁美講師	ボランティア活動のすすめ

(2) ほたる祭り実施協力

大学周辺には1960年代までは近隣にホタルが生息していたものの、環境の変化で絶滅の危機に瀕した。そこで、ホタルを再生させる取り組みを2003年からスタートさせ、翌年2004年にホタルが集うための水辺「ホタルのピオトープ ～ひかりのせせらぎ～」を大学内に完成させた。ホタルの飛翔を地域の方とともに楽しむ企画として、学生と教員が連携し、2004年より鑑賞会「ほたる祭り」を毎年実施し、近隣地域の方々に好評を得ている。



ボランティア活動支援センターでは、「ほたる祭り」の企画・運営に取り組む学生実行委員の活動支援を行っている。しかし、今年度 2021 年 6 月 12 日（土）に予定していた第 18 回 ほたる祭りは新型コロナウイルス感染症のため中止となった。

7. 外部との連携・協力など

(1)「ボラフェス！2021」の実施

本学の学園祭「ヴェリタス祭」にて、毎年、近隣や卒業生が働く福祉施設等をお招きし、手作り商品の販売やボランティア募集をしていただくなど福祉施設と学生・教職員、地域の方々との接点をつくる機会として実行委員会形式で実施している。昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響で学園祭がオンライン配信中心となったことを受けて、「ボラフェス！2021」は中止となった。



(2)地域イベントへの参画

上尾市やさいたま市等で行われるイベントについては、企画段階から関わるこ
とが増えてきている。学生も担い手の一人としての自覚を持ち参加することで、学生と地域との顔の見える関係が育まれつつある。今年度は昨年度に引き続き地域のイベントも中止が相次いだうえ、センターでは対面活動を制限していたため、例年に比べて地域イベントへの参加の機会が減少した。



地域イベントの参加実績と内容

日にち	依頼元／イベント名	参加内容	参加人数
2022年 3月12日（土）、 13日（日）	認定 NPO 法人彩の子ネットワーク／「こども☆夢☆未来フェスティバル」	オンラインでのレクリエーション、工作等	10名

(3)法人内での連携

i) 聖学院中学校中1 総合学習 L.L.T.「Learn Live Together」への協力

聖学院中学校の依頼を受けて、中学1年生3学期の総合学習 L.L.T.において、日頃ボランティア活動に取り組む学生が活動を通して学んだことや感じたことなどを伝え、生徒のボランティア活動への興味関心を引き出す授業を行った。また協力にあたっては、授業に協力する学生の伝える力とファシリテーション力を高める研修会を実施した。



研修会

日 時：2022年2月5日（土）9:30～12:00 オンライン（Zoom）開催
参加者：学生7名、聖学院中学校高等学校教員1名

- 内 容：・趣旨やねらいの共有と協力内容の確認
- ・ワーク①話す練習
 - ・ワーク②生徒に投げかける質問を考える
 - ・ワーク③質問を使って会話を進行してみる

第1回授業

日 時：2022年2月9日（水）11:10～11:55 オンライン（Zoom）開催

協力学生：ボランティア経験のある学生 10名

内 容：学生が各教室（5クラス）に分かれてZoomに入室し、授業がスタート。学生自らのボランティア活動の経験とまちとの関わりを語り、生徒とチャット機能を利用し意見交換を行った。

各授業テーマ：

- ・学生目線でSDGsを上げる
- ・猫と地域のよい関係づくり
- ・障がいのあるこどもたちとの関わり
- ・オンラインでの乳幼児親子との交流
- ・東日本大震災を伝え続ける



第2回授業

日 時：2022年3月2日（水）11:10～11:55

会 場：聖学院中学校高等学校 講堂

協力学生：復興支援や防災啓発活動に取り組む学生 3名

内 容：東日本大震災の復興支援活動、防災啓発活動に取り組む学生の体験談や、活動する中で考えていること、災害前後の行動で大切なことなどを語った。後日、生徒たちの感想シートに記載された質問や感想に答える形で意見交換を行った。



(4)学内他部署との連携

学内他部署と連携し、学生向けの研修・講座を実施した。



日にち	連携先	内容
2021年4月22日 (水)	国際交流センター	視野を広げるボランティア教養講座 「ミャンマーの今を知る」
2021年11月15日 (月)、22日(月)	学生支援課	ボランティア研修「直接会わなくてもできる！楽しい活動のつくり方」

(5)大学ボランティアセンター・コーディネーター研究会(通称:ほんわかねっと)

本研究会は、関東圏の大学ボランティアセンターの教職員の研修と情報交換を目的に2013年度に発足し、年1~2回のペースで開催している。近年参加大学が増えてきていることを受け、来年度より東京ボランティア・市民活動センターと連携し、大学ボランティアセンターにおけるコーディネーターの専門性向上を目的とした新団体設立に向けた話し合いを進めた。

第一回 大学ボランティアセンター・コーディネーター研究会

日時：2021年7月2日(金) 15:00~17:00 オンライン (Zoom) 開催

内容：・情報共有(各校センターから報告)

①2021年度春学期コロナ禍での取り組み状況と困りごと

②夏のボランティア活動の支援の状況

・意見交換

参加校：神田外語大学ボランティアセンター／十文字学園女子大学ボランティアセンター
中央大学ボランティアセンター
東京外国語大学ボランティア活動スペース (VOLAS)
東京都立大学ボランティアセンター／日本社会事業大学ボランティアセンター
明星大学きらきらボランティアセンター／明治大学ボランティアセンター
立正大学ボランティア活動推進センター
聖学院大学ボランティア活動支援センター

第二回 大学ボランティアセンター・コーディネーター研究会

日時：2022年3月1日(火) 10:00~12:00 オンライン (Zoom) 開催

内容：・情報共有(各校センターから報告)

・新団体設立について

①2022年度からの取り組み方針と事務局体制について

②概要説明、規約(案)の確認

③名称について、2022年度事業計画について

④入会申し込みについて

参加校：神田外語大学ボランティアセンター／十文字学園女子大学ボランティアセンター
成蹊大学ボランティア支援センター／中央大学ボランティアセンター
東京外国語大学ボランティア活動スペース (VOLAS)
東京都立大学ボランティアセンター／日本社会事業大学ボランティアセンター
明星大学きらきらボランティアセンター／明治大学ボランティアセンター
立正大学ボランティア推進センター／東京ボランティア・市民活動センター
聖学院大学ボランティア活動支援センター

8. その他

(1) ボランティア活動支援センター広報活動



i) WEB 上での情報発信

センターの取り組みを外部へ発信することを目的として、ホームページを設置している。日々の活動については、Facebook ページで紹介している。

- ボランティア活動支援センターホームページ：

<https://www.seigakuin.jp/life/seig-volunteer/>

- Facebook ページ：

<https://www.facebook.com/seig.vol>

フォロワー数：536 人（2022 年 3 月 31 日現在）

ii) 広報ツールの作成・更新

センターや事業の周知については、ボランティア活動支援センター事業報告書の発行・送付のほか、ポスター等の作成を行っている。

(2) ボランティア活動支援センター研究会



学生ボランティア支援に関わる専門性の向上を目的として、2021 年度よりセンター内に研究会を発足した。今年度は、コロナ禍におけるオンラインボランティアの可能性についての検討とともに、ボランティアコーディネーションに関わるケース検討等を実施した。

実施体制：センター内の研究会であり、構成メンバーはセンター所長とコーディネーター、アドバイザーとなっている。

第一回 ボランティア活動支援センター研究会

日時：2021 年 4 月 22 日（木）13:30～15:00 対面とオンライン（Teams）のハイブリット開催

参加者：若原所長、アドバイザー 1 名、コーディネーター 2 名

内容：2020 年度新型コロナウイルス感染症により急激に発展した「オンラインボランティア」について意見交換を行った。

- ①前提となる視点の共有
- ②各テーマに関わる意見交換
 - a オンラインで参加するための学び.
 - b. ボランティア活動を行う過程での学び
 - c. それらの学びをセンターとしてどう支援したか

③オンラインボランティアの可能性に関する視点の洗い出し

第二回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年5月20日（木）13:30～15:00 対面開催

ゲスト：柴崎裕特任教授

参加者：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター2名

内 容：昨年度オンライン活動を積極的に進めてくださった柴崎先生をゲストにお招きし、先生のこれまでの経歴や、どこでも絵本プロジェクトの担当教員としての関わりや意識した点などをご教示頂いた。

第三回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年6月17日（木）13:00～15:00 対面開催

参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター2名

内 容：・第二回を受けての論点整理
・コーディネーション事例検討

第四回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年7月15日（木）13:00～15:00 対面開催

参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名

内 容：・コーディネーション事例と仮説の照らし合わせと掘り下げ
・オンラインボラセンの分析
・コーディネーション事例検討

第五回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年8月25日（木）14:00～16:00 対面開催

参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名

内 容：・コーディネーション事例検討
・コーディネーターの専門性事例検討

第六回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年9月21日（火） 対面開催

参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名

内 容：・コーディネーション事例検討
・外部研究の共有
a.「ポストコロナ時代の福祉教育・ボランティア学習の価値と実践の問い直し」
b.「若者ボランティアの特徴と課題～コロナ禍における活動継続に関する検討より～」

第七回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年10月25日（火） 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：コーディネーション事例検討

第八回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年11月25日（木）13:00～15:00 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：・コーディネーション事例検討
・「引継ぎイベント」について

第九回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2021年12月22日（水） 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：・コーディネーション事例検討
・「引継ぎイベント」について

第十回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2022年1月27日（木） 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：・コーディネーション事例検討
・外部研究の共有

第十一回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2022年2月28日（月） 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：・コーディネーション事例検討
・2022年度の本研究会について

第十二回 ボランティア活動支援センター研究会

日 時：2022年3月23日（水）13:00～15:00 対面開催
参 加：若原所長、アドバイザー1名、コーディネーター3名
内 容：・ボランティア・まちづくり活動助成事業について
・災害時のセンターの動きについて
・2022年度の本研究会について

(3)コーディネーターのスーパーバイズ

センター発足時から、コーディネーターの日々のボランティアコーディネーションについて、毎週1回（15～60分程度）スーパービジョンを実施している。困難な調整事例や課題のある学生への対応方法など、コーディネーターが一人で抱え込まない環境づくりを行うことや、複数で課題を検討することで、様々なアイデアが生まれ、よりよい支援や活動につなげることを目的としている。

■スーパーバイズ：毎週1回 15～60分

**(4)研修・勉強会参加実績**

日にち	研修先・勉強会名等	参加人数
2021年 9月9日（木）、 10日（金）	大学ボランティアセンター職員セミナー2021 主催：認定 NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会 会場：オンライン	コーディネーター2名
2022年 2月26日（土）、 27日（日）	市民の参加と協働を進める多様なコーディネーション実践研究集会 2022 主催：認定 NPO 法人日本ボランティアコーディネーター協会 会場：オンライン	コーディネーター2名

(5)視察対応

日にち	来訪団体名	来訪人数
2021年8月4日（水）	日本薬科大学	教職員4名

(6)活動発表・講師対応



日にち	対応先
2021年 11月13日(土)	十文字学園女子大学公開講座 10代・20代のみんなが「健幸」に 生きるために ～人と共に生きる力を身につける～ 主催：十文字学園女子大学 シンポジスト：川田虎男
12月18日(土)	大学・短大等における学生ボランティア活動支援連絡会～様々な危 機と共存する時代に学生ボランティア活動支援をどう展開するか～ 主催：東京ボランティア・市民活動センター 事例提供：芦澤弘子
2022年 2月9日(水)	市民活動センターセミナー「若者のボランティア活動の現状とこれ から」～市民活動に若者の参加を促すエッセンスとは～ 主催：桶川市市民活動サポートセンター 講師：川田虎男、原一織
2月12日(土)	市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2022 分科会 16「企業とのパートナーシップで“ミライ”を変える～企業連携の 実際と可能性～」 主催：市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2022 実 行委員会、東京ボランティア・市民活動センター 企画・進行：芦澤弘子
2月26日(土)	ソーシャルワーク研究講演会シンポジウム 主催：聖学院大学総合研究所 シンポジスト：川田虎男
3月16日(水)	学生(ボラ)のためのスタッフ研修「オンラインのあたたかい場づ くり」 主催：公益財団法人日本財団ボランティアセンター 講師：川田虎男、芦澤弘子

(7)外部委員



氏名	所属委員会
川田虎男	<ul style="list-style-type: none"> さいたま市高齢者生活体制整備事業協議会(委員長) パルシステム埼玉市民活動支援助成金審査員(委員長)

	<ul style="list-style-type: none"> • 埼玉県社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員 • 上尾市社会福祉協議会ボランティアセンター運営委員（委員長） • 日本福祉教育・ボランティア学習会特任理事 • 学生（ボラ）のためのスタッフ研修実行委員
芦澤弘子	<ul style="list-style-type: none"> • 市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2022 準備会委員 • 市民社会をつくるボランタリーフォーラム TOKYO2022 実行委員 （副実行委員長、事務局：東京ボランティア・市民活動センター） • 災害ボランティアセンター運営におけるネットワーク会議 （主催：埼玉県社会福祉協議会 ） • 学生（ボラ）のためのスタッフ研修実行委員

資料集

1. 聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

聖学院大学ボランティア活動支援センター内規

(目的)

第1条 聖学院大学(以下「本学」という。)は、聖学院教育憲章内の「神を仰ぎ、人に仕う」、オンライン・フォー・アザーズ(他者のために生きる個人)、サーヴァント・リーダーシップなどの精神の具現化のため、キリスト教大学における教育活動の一環として推奨されるボランティア活動の普及に取り組み、本学における諸ボランティア活動を支援するために、聖学院大学ボランティア活動支援センター(以下「センター」という。)を設立する。

(組織)

第2条 センターの活動を円滑に展開するために、次の教職員を置く。

- (1) センター所長 1名
- (2) センター副所長 若干名
- (3) ボランティアコーディネーター及びアドバイザー 若干名
- (4) 事務職員 若干名
- (5) その他学長が大学教授会で指名した者

2 センターの運営は、第3項に規定する聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)によってなされ、センター所長が議長を務める。

3 運営委員会は以下の構成員から構成される。

- (1) センター所長
- (2) センター副所長
- (3) チャプレン
- (4) 聖学院大学教授会代表(数名)
- (5) 聖学院大学学生代表(数名)
- (6) 大学事務局管理部長
- (7) ボランティアコーディネーター
- (8) アドバイザー
- (9) センター職員
- (10) 聖学院大学学長、総局長は必要に応じ陪席できるものとする
- (11) その他、センター所長が必要と認める者

4 第1項第1号に規定されるセンター所長は、学長が指名する。

5 第1項第2号に規定されるセンター副所長は、所長が若干名を指名する。

(事業)

第3条 センターは、第1条の目的を実現するために以下の事業を担当する。

- (1) キリスト教に基づくボランティア精神の育成と普及に関する事業
- (2) ボランティアの人材育成とその担保に関する事業
- (3) 学内の諸ボランティア活動の連絡、協力および支援に関する事業
- (4) 学外のボランティア情報の紹介とその活動の支援に関する事業
- (5) ボランティア基金の育成と経済的支援に関する事業
- (6) ボランティア活動の記録と広報に関する事業

(改廃手続)

第4条 この内規の改廃は、大学教授会の議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、2013年4月1日から施行する。

附 則

この内規の一部改正(規程形式及び運営委員会の構成員の変更)は、2018年12月17日から施行する。

2. ボランティア活動支援センター運営委員一覧(2021年度)

センター所長	若原幸範	学長補佐、政治経済学科准教授
センター副所長	渡辺正人	地域連携・教育センター所長、基礎総合教育部教授
運営委員	氏家理恵	欧米文化学科教授
	清水 均	日本文化学科教授
	柴崎 裕	児童学科特任教授
	金谷京子	こども心理学科／心理福祉学科特任教授
	五十嵐成見	人間福祉学部／心理福祉学部チャプレン、准教授
	玉之内 菫	学生サポートメンバー、心理福祉学科4年
	金久保仁	学生サポートメンバー、児童学科3年
	真野和英	経営企画部長
	平井真知子	大学運営チーム
	川田虎男	ボランティア活動支援センターアドバイザー
	芦澤弘子	ボランティアコーディネーター
山田裕太	地域連携・ボランティア支援チーム	

3. ボランティア活動支援センター運営委員会協議事項

第97回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021年3月3日(水)【オンライン開催】

協議事項なし

第98回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021年4月7日(水)【オンライン開催】

・復興支援交通費補助規程の改定(案)について

第 99 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 4 月 28 日(水)【オンライン開催】

・夏のボランティアスタディツアーの実施方法について

第 100 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 6 月 2 日(水)【オンライン開催】

協議事項なし

第 101 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 7 月 7 日(水)【オンライン開催】

・夏のキッズかけっこ教室の延期について

・ボランティア・まちづくり活動助成事業検討小委員会の立ち上げについて

第 102 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 9 月 8 日(水)【オンライン開催】

協議事項なし

第 103 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 10 月 6 日(水)【持ち回り開催】

協議事項なし

第 104 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 10 月 27 日(水)【持ち回り開催】

・2022 年度ボランティア活動支援センター設立 10 周年記念事業の実施計画について

第 105 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2021 年 12 月 1 日(水)【オンライン開催】

・2022 年度ボランティア活動支援センター設立 10 周年記念事業の実施計画について

・2022 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件

・ボランティア・まちづくり活動助成事業検討小委員会の報告と今後の方針について

第 106 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2022 年 1 月 5 日(水)【オンライン開催】

・2022 年度ボランティア活動支援センター事業計画・予算の件

第 107 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2022 年 2 月 2 日(水)【持ち回り開催】

第 108 回 聖学院大学ボランティア活動支援センター運営委員会

日時 2022 年 3 月 9 日(水)【持ち回り開催】

4. ...メディア出演・掲載

■毎日新聞埼玉版:2021年8月31日(火)

「震災経験者とウェブで交流 改めて防災考える:聖学院大がスタディーツアー」
著作権により非表示

■埼玉新聞:2022年3月9日(水)

「復興支援の継承模索:コロナ下、現地訪問できず 小中学生に防災講座続ける」
著作権により非表示

5. 広報ポスター各種

■ボランティア勧誘 DAY!!

「話を聞くだけ」大歓迎!

ボランティア勧誘DAY

～ボラKAN!!～

ボランティア活動に興味がある人、集まれ～!

日にち: 2021.4.13(火)、14(水)、15(木)

時間: 昼休み (12:10~13:00)

場所: 1号館前芝生エリア
※雨の場合は1号館地下1階1cafe

対象: 聖学院大学全学生

ブースで紹介予定のボランティア活動

- ・オンラインでの乳幼児親子との交流活動
- ・子ども達に楽しくわかりやすい防災について紹介する活動
- ・知的障がいのある中・高校生と一緒に活動
- ・地域問題にアプローチする活動
- ・警察ボランティア など

子どもや障がい者、環境、防災、防犯に関する活動を中心に学内外のボランティア団体や個人で参加できる活動を紹介します!

オンラインでボランティア活動を紹介してほしいという人はこちらに参加ください!!

★オンラインボラキャン

日にち: 4月16日(金)、23日(金)、30日(金)

時 間: 昼休み (12:10~13:00)

参加方法: Teams「ボランティア活動支援センター」のグループ内で行います。

(1) Teamsにログインする。

(2) 「チームに参加/チームを作成」をクリック

(3) 「コードでチームに参加する」のコード入力欄に「f624x7j」を入力する。

問い合わせ: ボランティア活動支援センター (1号館1階1103教室)
TEL:048-780-1705 (平日9時~17時) E-Mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

主催: 聖学院大学学生サポートメンバー(サポメン) / 聖学院大学ボランティア活動支援センター

■シトラスリボンプロジェクト

コロナ禍での偏見や差別をなくそう

シトラスリボンプロジェクト

リボン製作会 参加者募集!

シトラスリボンとは?

新型コロナウイルス感染症による群集中傷や差別をなくす。 「ただいま、おかえり」と言い合える優しいまちでありたいように、一と、実地案内で生み出したプロジェクトです。リボンの3つの輪は「地域・家庭・職場(学校)」を表しています。この願いに共感し、埼玉県内でシトラスリボンを広める活動が盛んになっています。 ※完成したリボンは後日回収し、地域での啓発活動に使用していただく予定です。

日時: 5月17日(月)12:20~12:55

場所: 4402 教室(定員15名)

内容: シトラスリボンづくり
ゲスト: 市川高代子さん(あけおハートフルプロジェクト) 安藤由美さん(ハッピーアイランド)

準備するものは: さみ(持ってない人は貸し出します)

シトラスリボンプロジェクトの紹介やリボンのつくり方の動画をボランティア活動支援センターのTeamsグループに掲載しています。興味のある方は視聴方法をお伝えしますのでボランティア活動支援センターまでお声がけください。

申し込み方法: 来室(1103教室)、もしくはメールで5月14日(金)昼休みまでに申し込みください。メールでの申し込みは、タイトル「リボン製作会参加希望」とし、①氏名、②学籍番号を明記のうえ、vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp にお願います。

主催・問い合わせ: ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)
メール: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp Tel: 048-780-1705
開室時間: 平日9時~17時

■ミャンマーの今を知る

視野を広げるボランティア教育講座 2021

ミャンマーの今を知る

写真: ミャンマーのシアンシェン湖にあるパターレー

ミャンマーについて、テレビやネットニュースで毎日のように目にするようになり、ミャンマー国軍は2021年2月1日、国家の権力を掌握したと宣言を行いました。この軍によるクーデターにより軍の統治下に置かれたミャンマーでは、市民らによる抗議活動が続いており、多くの犠牲者が出ていることが日本でも報道されています。

いまミャンマーで起きていることを、他人事として終わらせるのではなく、そこに関心を寄せ、考える時間をみなさんと持ちたいと思います。みなさんのご参加をお待ちしています。

日時: 2021年4月22日(木) 12:20~12:55

開催方法: 対面(1号館地下1階1cafe/定員15名)・オンライン(ZOOM)同時開催

対象: 聖学院大学全学生、教職員

内容: ・ミャンマーってどんな国?
・今、ミャンマーで起きていること
・質疑応答

ゲスト: 荻野 茶々(オギノ チャチャ)さん
※ゲストはオンラインで参加します

申し込み方法: 来室(1103教室)、もしくはメールで4月21日(水)昼休みまでに申し込みください。オンライン参加の方は申し込み後にZoom参加URLをお知らせします。メールでの申し込みは、タイトル「ボランティア教育講座参加希望」とし、①氏名、②学籍番号(教職員の場合は所属)、③参加方法(対面もしくはオンライン)を明記のうえ、vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp にお願います。

問い合わせ: ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)
メール: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp Tel: 048-780-1705
開室時間: 平日9時~17時

主催: ボランティア活動支援センター 共催: 国際交流センター

■学生サポートメンバー養成講座

“ボランティア活動を応援する人”になる!

学生サポートメンバー

養成講座 2021 (10期生)

受講生募集!! (オンライン、対面参加どちらも可能)

ボランティア活動支援センターではコーディネーターと協力し、ボランティア活動と学生の架け橋となる「学生サポートメンバー(サポメン!)」として活動するための養成講座を実施します。

「ボランティア活動を応援するボランティア」に関心のある皆さんの受講を希望しています!

■サポメン!の活動内容(例)

- ・ボランティアの魅力を発信する(ポラTeamの実施など) ・サポメン!と一緒に行くボランティアの企画
- ・ボランティア活動先を紹介する(相談コーナー) ・他大学の学生との情報交換
- などなど・・・活動は、サポメン同士で相談して決めています!

■講座スケジュール

第1回 5月31日(月) 18:15~20:00
「学生サポートメンバーの役割と可能性」
そもそも、学生サポートメンバーの役割とは、また、サポメンと連携するボランティア活動支援センターについて理解を深めます。

第2回 6月7日(月) 18:15~20:00
「アイスブレイク100連発!??」
ボランティア活動で必要となる「アイスブレイク」について実演を通じて学びます。オンラインで交流を深める方法を一緒に考えよう!

第3回 6月14日(月) 18:15~20:00
「サポメンの養成講座」
サポメンの養成講座の一つとして、ボランティアをした4年生と実際の活動につながる話が聞かれます。現役のサポメン!や受講生の間を活動を通じて大学周辺のボランティアについて学びます。

■参加条件

- 今までに何かしらのボランティア経験がある
- ボランティア活動を広めたいと思っている
- 定員 10名

一緒にサポメン!として活動しよう!

受講に関するお問い合わせと申し込みは ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)まで
TEL: 048-780-1705 (平日9時~17時) Mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■第1回 サボメン！ボランティアサロン

第1回 サボメン！ボランティアサロン

聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる学生サポートメンバー(サボメン)とボラセンのコラボで実施する交流会です。

ボランティアの体験談を聞いてみたい人歓迎!



毎回異なるテーマで開催予定!

今回のテーマ:「シトラスリボンプロジェクト」

話題提供者: 心理福祉学科3年 中川留奈さん

シトラスリボン…新型コロナウイルス感染症による躊躇中傷や差別をなくそう、「ただいま、おかえり」と言い合える優しいまちでありますように…と、愛媛県内で生まれたプロジェクトです。リボンの3つの輪は「地域・家庭・職場(学校)」を表しています。

日時: 2021年6月11日(金) 昼休み(12:15~12:55)

開催: 対面(4403教室/定員15名)・オンライン(定員8名)
※会場での飲食はできませんので、ご注意ください。
※オンライン参加の方へ: 後半のディスカッションは、ビデオ・マイクONでご参加ください。

対象: 聖学院大学全体学生

申し込み方法: 来室(1103教室)、もしくはメールで6月10日(木)昼休みまでに申し込みください。オンライン参加の方は申し込み後に Zoom 参加 URL をお知らせします。メールでの申し込みは、タイトル「サボメンボランティアサロン参加希望」とし、①氏名 ②学籍番号 ③参加方法(対面もしくはオンライン)を明記のうえ、vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp にお願います。

問い合わせ: ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)
TEL: 048-780-1705 (平日9時~17時) E-Mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

主催: 学生サポートメンバー(サボメン1)/ボランティア活動支援センター

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(ゼミ向け・チラシ表面)

1プロジェクト 最高 50,000円 (総額300,000円)



社会貢献活動に関わるゼミを応援します!

聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成金

ボランティア活動支援センターでは、2015年度より大学同窓会の協力を得て、ボランティア活動に取り組む学生への助成を行ってきました。昨年から「地域と学ぶ大学」への活動を、ゼミ等の教育活動の一環として、地域貢献に関わる活動についても応援しています。学生たちの企画力やプレゼン力等の実践力を身に付ける機会にもなります。

ぜひ、地域×教育の活動費として、本助成金をご活用ください。

助成対象になるゼミ活動例

- ☆地域の子どもたちを対象に遊びひろげや読み聞かせのひろげを開催
- ☆伝統文化を伝えるイベントなどを企画
- ☆留学生による料理を通じた文化発信や地域交流
- ☆NPO・企業・行政と連携した商品開発やイベント企画等

これまでに助成金を受けて活動を展開したゼミ

どうも絵本プロジェクト (児童科専攻ゼミ)
オンラインで親子読書のイベントを開催し、親子読書の楽しさを伝える活動を行いました。

Unity (人間福祉学科専攻ゼミ)
医療法人社団地域活動支援センター「ふたばの家」と連携し、精神障害をお持ちの利用者の方々と職員との交流を図る活動を実施。精神障害をお持ちの方々の声の届く活動の場を確保しました。

助成金を希望する場合

1. まずは、ゼミのプロジェクト担当学生数名で5月26日(水)・27日(木)にオンライン開催する説明会兼研修会に参加をお願いします。

2. 申請書類と6月26日(土)午後1時に実施する公開審査会の内容をもって、助成額を決定します。

詳細は裏面をご覧ください

申し込み・問い合わせ: 聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階1103教室)
TEL: 048-780-1705 MAIL: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(チラシ表面)



社会貢献活動をがんばるみなさんを応援します!

ゼミ サークル 各種委員会 学生会 有志の集まり

聖学院大学ボランティア・まちづくり活動助成金

申請期間 ▶ 2021年6月1日(火)~11日(金)
オンライン事前説明会および研修会 ▶ 5月26日(水)・27日(木) ※いずれか1日

地域・社会貢献活動に頑張る学生に、卒業生(聖学院大学同窓会)が応援の手を差し伸べ、助成してまいります。
この機会に資金をゲットし、新しいチャレンジ、してみませんか?

1プロジェクト 最高 **50,000円** (総額300,000円)

※申請書類の内容と公開審査会でのプレゼンテーションをもって、助成額を決定。
【助成対象者】
地域・社会に貢献する意思をもった聖学院大学生5名以上のグループであれば、どなたでも(経験不問)

こんな人にオススメ!
・続けたい活動はあるけど、交通費が大変…
・新しい活動にチャレンジしてみたい!
・新しい団体をプロジェクトを立ち上げようと考えている!

まずは説明会へ

**詳細は裏面を
チェック**

申し込み・問い合わせ: 聖学院大学ボランティア活動支援センター(1103室、平日9時~17時)
TEL: 048-780-1705 MAIL: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

■ボランティア・まちづくり活動助成事業 応募団体募集(チラシ裏面)

2021年度 聖学院大学ボランティア・まちづくり助成金 募集要項

応募資格	地域へ貢献する意思をもった聖学院大学の学生5名以上の有志のグループ。 以下のみなさんは誰でも応募できます。 ① 学内のボランティア団体 ② ゼミ・アドバイザーグループ ③ 学生会クラブ・同好会 ④ 各種委員会 ⑤ 有志の集まり ※オンライン上でのボランティア活動等、新しいアイデアを待っています。
助成内容	① 地域貢献活動助成 最大 5万円 ② 被災地応援・復興支援助成 最大 5万円 ※上掲市内での活動を予定している団体には別途寄付金拠出からの助成も受けられます。
助成対象経費	活動を行う上で必要な経費全般。ただし、自分たちの飲食代は除く。
応募期間	2021年6月1日(火)~11日(金)
助成対象期間	2021年5月1日~2022年3月末までの活動に対して助成
申請書・応募方法	① Zoomで開催するオンライン説明会兼研修会にご参加ください。参加のための申し込みについては、ボランティア活動支援センターまでメール vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp にご確認ください。 5月26日(水) 18:00~19:00 / 5月27日(木) 18:00~19:00 どちらかにご参加ください。申請の流れについて説明し、事業企画書の書き方について研修を行います。 ② 必要事項を記入し申請書を6月11日(金)までに、ボランティア活動支援センターに提出ください。(提出方法は説明会の際にお知らせします) ③ 6月26日(土) 午後1時に公開審査会(開催方法や詳しい時間は未定)を行います。
選考方法	申請書類と公開審査会のプレゼンテーションの内容をもって助成額を決定します。助成金の交付は7月1日(木)昼休みを予定しています。
報告書の提出と報告会への参加について	報告書は活動終了後1ヶ月以内の提出になります。(ただし、3月の活動は3月末日) また、2022年1月14日(金)に実施予定の活動報告会にて助成対象事業の報告(現在のところ学内に開催予定)をしてもらいます。
申込み・問合せ先	聖学院大学ボランティア活動支援センター(1号館1階 1103室) 担当: 川田・岸津・教井 TEL: 048-780-1705 (平日9:00~17:00) Mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp
その他	特別対応として、予定していた活動が新型コロナウイルス感染拡大等の事由で中止になるなど、活動内容に変更があった場合、助成金の返金を受け付けます。
共催団体	聖学院大学同窓会/社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 聖学院大学ボランティア活動支援センター/地域連携・教育センター

聖学院大学同窓会 秋谷大輔 (2004年度 経済文化学科専攻)


地域へ社会貢献、ボランティアを新しい文化として、成長を遂げる皆さんをサポートするべく、私たち同窓会からできる限りのお手伝いをさせていただきます。既に機会にたいへん様々なアイデアで出されること、たいへん喜ばしく、実行する皆さんの活躍を願っております。

学校法人聖学院は、国連グローバルコンパクトに加入し、SDG+を目標とした活動を推進しています。

■第2回 サポメン！ボランティアサロン


第二回ボランティアサロン


聖学院大学のボランティア活動を盛り上げる学生サポートメンバー(サポメン)とボラセンのコラボで実施する交流会です。



今回のテーマは「遊び場オンラインプロジェクト」
 話題提供者 日本文化学科3年馬場穂乃さん

遊び場オンラインプロジェクトとは？
 コロナ禍であってもオンラインで子ども達と交流の機会を作りたい、という思いで2020年に立ち上がったボランティア団体です。子どもを主な対象として、歌、ゲーム、クイズ、ダンス、手遊び歌などの双方向型のレクリエーションをオンラインで行っています。





日時：2021年7月9日(金) 昼休み(12:15～12:55)

開催：対面(403教室/定員15名)・オンライン(定員8名)
 ※会場での飲食はできませんので、ご注意ください。
 ※オンライン参加の方へ：後半のディスカッションは、ビデオ・マイクONでご参加ください。

申し込み方法：来室(1103教室)、もしくはメールで7月8日(木)昼休みまでに申し込みください。オンライン参加の方は申し込み後にZoom参加URLをお知らせします。メールでの申し込みは、タイトル「サポメンボランティアサロン参加希望」とし、①氏名 ②学籍番号 ③参加方法(対面もしくはオンライン)を明記のうえ、vol-sup@seigakuin-univ.ac.jpにお願いします。

問い合わせ：ボランティア活動支援センター (1号館1階1103教室)
 TEL：048-780-1705 (平日9時～17時) E-Mail：vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

主催：学生サポートメンバー(サポメン！)/ボランティア活動支援センター

■東北オンラインスタディツアー(表面)



聖学院大学
東北“オンライン”スタディツアー
 東日本大震災を学び、東北の魅力を触れ、語り合う2日間

自由参加企画「東北を味わおう！」開催！
 ※参加費500円 ※詳細は裏面へ

聖学院大学は東日本大震災復興支援活動を継続的に行ってきました。昨年引き続き今年の夏も“オンライン”を通じて、学びと交流の機会を創ります。皆さんの参加をお待ちしています。尚、このツアーには女子聖学院高等学校、聖学院高等学校、埼玉県熊谷市にある自由の森学園高等学校の生徒も参加を予定しています。

■日程：8月27日(金)13:00～16:00、28日(土)10:00～16:00
 ■募集人数：30名
 ■対象：Zoomでのビデオ通話参加可能な方
 ※Zoomアプリのダウンロードや参加方法については申し込みの際にお知らせいたします。また、交流会中継の録画はビデオ、マイクともにオフで参加いただけます。

■締切：8月6日(金) ※定員に達し次第締め切ります。
 ■ツアー内容：現地の方のお話、東北の魅力紹介、参加者間の意見交流など(予定)
 ■参加費：無料 ※自由参加企画に参加の方は飲食代として500円いただきます。
 ■申し込み方法：参加を希望する方は、聖学院大学ボランティア活動支援センターまでメールで連絡ください。メールを送る際は「オンラインツアー参加希望」として、①氏名、②学籍番号、③自由参加企画参加有無を明記してください。オプション企画参加の方は8月6日(金)までにボランティア活動支援センターにて参加費をお支払いください。
 ■その他：現地とオンラインでつなぐ関係で、新型コロナウイルス感染症拡大状況によっては中止となることもあります。あらかじめご了承ください。
 *ツアーに関する問い合わせは、ボランティア活動支援センター(1号館1階1103室)まで！
 来室、メール、電話で受け付けます。*
 メール：vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp TEL:048-780-1705(平日午前9時～午後17時)

主催：聖学院大学ボランティア活動支援センター 企画・運営：聖学院大学学生有志 詳細は裏面へ

■東北オンラインスタディツアー(裏面)

東北“オンライン”スタディツアー

スケジュール(予定)

ツアー1日目 8月27日(金)

1 午後13時から16時：震災学習と学生有志によるプログラム
 2011年3月11日に発生した東日本大震災について理解を深めるほか、東北の魅力に迫ります。

午後16時15分から17時：自由参加企画「東北を味わおう！」 ※希望者のみ
 東北につながるある学生おススメのお土産、「乾場ほや(宮城県栗原市)」、「仙人輪水(岩手県奥州市)」、「赤みんな(岩手県)」、「おまかせ(岩手県)」、「おまかせ(岩手県)」の参加費交流企画に、「乾場ほや」が個人参加(送料別)します。各自で各自各自で準備ください。この期間になったら、みなさんとオンラインでつながりながら、各自で各自で楽しむください。

ツアー2日目 8月28日(土)

2 午前10時から12時：小さな命の意味を考える会代表取締役先生のお話
 宮城県石巻市立田川小学校では、震災時に発生した津波で児童74人、教職員10名が犠牲となりました。なぜ子どもたちの命を救えなかったのか、子どもたちの命がいかにかけられているのか、小学校で教員をこころえ、現在は語り部として活動されている佐藤先生(元中学校教員)に校舎を案内いただきながらお話を伺います。

— 昼休憩 (12時から13時半) —

3 午後13時から14時半：聖学院大学3年佐野麗奈さんのお話
 震災当時は岩手県奥州市立熊鷹小学校の4年生。高校生の時には当時津波から避難した経験を通じて小学生に避難の大切さを伝える活動に取り組みされている佐野さんに、震災当時の経験や、高校生の時の取り組みを中心にお話を伺います。

4 午後14時半から16時：参加者間の語り語り
 この2日間のツアーに参加して感じたことや考えたこと、自分たちでできることは何か、5つたテーマ等で参加間による意見交流を行います。

■第3回 サポメン！ボランティアサロン

経験者が語る！

第3回 サポメン！ボランティアサロン

就活でボランティアを 活かす方法

10/29(金)12:15~12:55

今回のテーマ：「ボランティア活動を就活に活かした先輩の経験談を聞こう！」

経歴提供者：心理福祉学部 心理福祉学科 4年 榎澤 実美さん
所属はダンス同好会 OROK サポメン、防災救援マ volontary、主なボランティア活動は神戸大学(シニアリーダーズクラブ)、働くみボランティア、「みんなであらう」(NPO) 救済、マ volontary のレンジャー(ジョー)。

日時：10月29日(金) 昼休み 12:15~12:55 ※12:05 受付開始
開催：ハイブリット：Teams (★オンラインボラセン★)、対面 (1号館2階 1203 教室) ※会場での飲食はできませんので、ご注意ください。
対象：聖学院大学全学生
申し込み方法：不要
Teams (★オンラインボラセン★) 参加方法
「チームに参加(チームを作成)をクリックし、「コードでチームに参加する」のコード入力欄に「62kxy7」を入力する。
問合せ：ボランティア活動支援センター (1号館1階 1103 教室)
Tel : 048-780-1705 (平日 9時~17時) E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp
主催：学生サポートメンバー(サポメン！) / ボランティア活動支援センター

■直接会わなくてもできる！楽しい活動のつくり方

対面じゃないと活動できないと思ってたけど、うちの活動をオンライン化しよう。

今回メンバーとオンライン会議試してみよう！

不安定な中でオンラインでももっと楽しく活動できそう！

直接会わなくてもできる！

「楽しい活動のつくりかた」参加者募集

みなさんの活動ではオンラインを導入していますか？対面じゃないと楽しく活動できないと思って手をつけていないグループも多いと思います。また、すでにオンラインでの会議や活動を導入していても、みんなが話し合った感がなくて進め方に悩んでいるリーダーや、参加した実感の持てないメンバーの方もいます。そんな皆さんのお悩みを解決すべく、オンラインでの活動のつくり方を学ぶ講座を実施します。皆さんの参加をお待ちしています！

日時：基礎編 遠人に学ぶ！「楽しい活動のつくりかた」
体を動かす系から会館中心の活動まで楽しいオンライン事例を紹介します。
2021年11月15日(月)18:00~20:00
実践編 「楽しい活動」をスタートさせよう！
実際に楽しくオンラインで活動するコツをワークを通じて学びます。
11月22日(月)18:00~20:00

※基礎編のみの参加もOKです！実践編参加希望の方は基礎編も合わせて受講をお願いします。
会場：学内(エルビスホール)とオンライン (Zoom) のハイブリット開催
講師：足立 さとみさん (NPO 法人 CR フォトリ) ほか
対象：全学生、オンラインでの会議進行、活動の場づくりに興味のある方
申し込み締切日：11月10日(水)17:00
申し込み方法：
URL もしくは QR コードより申し込みをお願いします。
<https://forms.office.com/r/X24QWwPwG>

問い合わせ：ボランティア活動支援センター (1号館1階 1103 室)
メール vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp

共催：ボランティア活動支援センター / 学生支援課 / 日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo)

■タイ北部の子どもたちの学びを止めないために

日本でも国際協力！

タイ北部の子どもたちの 学びを止めないために

—ア・ア・ア財団支援プロジェクト活動説明会—

タイ北部は経済的貧困が深刻で、教育の機会が不足している。貧困層である子どもたちは、学校や塾に通って勉強している山岳民族の子どもたちもいる。その子どもたちが通学する距離が長く、自分たちで何ができるか一緒に考えよう。一緒に勉強しようと思えば、国内で協力できるプロジェクトの紹介もしています。みなさんのご参加をお待ちしています。

ア・ア・ア財団について
1974年の活動を開始したこの財団は、自立を促した地域開発を目的とした民間企業 NPO。経済的に貧しい子どもや貧困層の子どもたちの就学・就労支援活動を行っています。
平尾 浩一 代表のアドバイザーです。

日時：11月16日(火) 12:15~12:55
会場：対面 (2号館4階 2401C 教室) と Teams (★オンラインボラセン★) のハイブリット開催
ゲスト：伊藤 豊先生 (聖学院中学高等学校教員)
対象：聖学院大学全学生
申し込み：不要 当日直接会場、もしくは Teams に参加ください。
Teams (★オンラインボラセン★) 参加方法
「チームに参加(チームを作成)をクリックし、「コードでチームに参加する」のコード入力欄に「62kxy7」を入力してください。参加方法が分からなければボランティア活動支援センターに問い合わせてください。
問い合わせ：ボランティア活動支援センター (1号館1階 1103 教室)
メール：vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp Tel: 048-780-1705 (平日 9時~17時)
主催：聖学院大学ボランティア活動支援センター / ア・ア・ア財団支援プロジェクト

■第4回 サポメン！ボランティアサロン

経験者が語る！

好評につき 第二弾！！

第4回 サポメン！ボランティアサロン

就活でボランティアを 活かす方法

12/10(金)12:15~12:55

今回のテーマ：「経験者から、ボランティア活動を就活に活かした経験談を聞こう！」

経歴提供者：政治経済学科 4年 飯島 阿悠さん
これまで取り組んだボランティア活動は学生・高校生向けキャリア体験型ボランティア、ドナルドマックドナルドの「たのしみなボランティア」(ボランティア活動体験型ボランティア)。

日時：12月10日(金) 昼休み 12:15~12:55 ※12:05 受付開始
開催：ハイブリット：Teams (★オンラインボラセン★)、対面 (1号館2階 1203 教室) ※会場での飲食はできませんので、ご注意ください。
対象：聖学院大学全学生
申し込み方法：不要
Teams (★オンラインボラセン★) 参加方法
「チームに参加(チームを作成)をクリックし、「コードでチームに参加する」のコード入力欄に「62kxy7」を入力する。
問合せ：ボランティア活動支援センター (1号館1階 1103 教室)
Tel : 048-780-1705 (平日 9時~17時) E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp
主催：学生サポートメンバー(サポメン！) / ボランティア活動支援センター

■ 葦ストローワークショップ

脱プラスチック生活を実践しよう！

葦ストローづくり ワークショップ



私たちの便利な生活を支えているプラスチックですが、過剰な利用が海洋汚染等の原因を引き起こしていることから世界全体でプラスチックの使用が見直されつつあります。日本でも昨年レジ袋が有料化されたことをきっかけに、エコバックの利用が増えるなどプラスチック削減の取り組みが始まっています。しかし、プラスチックの削減に向けた取り組みは十分とは言えません。そこで、今回はプラスチックストローの削減に着目し、上尾市内の川辺に生える葦を使って、エコなストローをつくりたいと思います。皆さんのご参加をお待ちしています！

日時：2022年**1月19日(水)**10:40～12:10

場所：1号館1階調理室

定員：15名

講師：鴨川水辺サポーターの会 古屋 禎之さん ほか



鴨川水辺サポーターの会（上尾市）
鴨川の維持・保全活動を行うことにより、次世代へ快適な河川環境を引き継ぐことを目的として、美化活動、水質調査活動等に取り組んでいます。

申込方法：メールもしくは、ボラセンに入室して、1月14日(金)昼休みまでに申し込みをお願いします。
メールでの申し込みは、タイトルを「ストローづくり参加希望」とし、
① 氏名 ②学番号 を明記の上、vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp まで。

主催・問い合わせ：ボランティア活動支援センター（1号館1階1103教室、開室時間：平日9時～17時）

聖学院大学 ボランティア活動支援センター 2021 年度事業報告書

2023 年 3 月発行

発行

聖学院大学ボランティア活動支援センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL: 048-780-1705

FAX: 048-781-0094

URL: <https://www.seigakuin.jp/life/seig-volunteer/>

E-mail: vol-sup@seigakuin-univ.ac.jp



学校法人聖学院は 2018 年 4 月、
グローバル・コンパクトに署名・加入し、
SDGs を目指した活動を行っています。